

Title	内藤光備著 俵ふるひ
Sub Title	
Author	幸田, 成友
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1948
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.41, No.1/2 (1948. 2) ,p.19- 59
JaLC DOI	10.14991/001.19480201-0019
Abstract	
Notes	資料
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19480201-0019

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

價値として實現しうる前に、諸使用價値たる實を示さねばならぬ。けだし、それらに支出された人間の労働は、それが他人に、とつて有用な形態で支出されてゐる限りでのみ計算に這入るからである。ところが、それが他人に有用であるか否か、從つて、その生産物が他人の諸欲望を充たすか否かは、たゞ諸商品の交換のみがこれを證明することができる。」(二八二—三頁)また、同じく第三章第二節流通手段の箇所で「市場の胃の腑」の問題として提起されてゐることも記憶されるところであらう。(三二七頁)なおこゝから商品價値を規定する「社會的必要勞働時間」の「社會的必要」を以て必要の方面をも顧慮せるものと看做す見解がうまれやすいが、その妄見たることは再説するまでもない。かゝる妄見においては價値(市場價値)の成立と價値の實現(市場價格の成立)との間の過程上の差異一方は生産過程、一方は流通過程——が無規され、又使用價値と價値、有用的勞働と抽象的勞働との對立が抹殺されそれらが「調和」されてしまふ兩者はそれぞれ統一物であつて同一物ではない。統一は對立の上に立ち、「調和」とは異なる。しかもかゝる謬解は今日に至るも跡をたゞぬ。(高田保馬氏著「労働價値説の吟味」、四五頁。高橋正雄氏「マルクス」「日本政經研究」昭和二二年七月、六三頁)奇とすべきである。なお安部隆一氏の使用價値即物觀(本論第一節註「參照」)の非辯證法的性格よりしては到底市場價値の實現過程における使用價値

との對立・統一は理解されることはできぬ。これ又、一面的認見とすべきである。

一九四八一一一四

俵ふるひ内藤光備著 解題幸田成友

本書は林若吉氏の遺書賣立に際し、自分の入手した半紙判寫本で、本文三十一丁前附一丁後附三丁計三十五丁より成る。本文は漢字片假名交りで毎半丁十四行、一行二十五六字より三十三字に至る。文字拙劣言ふに足らずといへども、本書脱稿後僅々二年餘に抄寫せるものなることは、轉寫の都度に増加の傾ある誤謬を少からしめたと稱して宜からう。筆者は涼竹陣人とあるだけで氏名未詳、鶴府城の南麓松月亭で執筆せる旨識語に見えるから、或は羽前國鶴ヶ岡の住人か。

著者内藤光備字は子興は柳があるじと稱し、御代官の手代を職としたことは、本書の序跋によつて容易に知られるが、それ以上の経歴は不明である。同人の自序に「串江の吏隱」とあり、串江は地名らしく思はれるが、それが今何の地に當るか考へ得ぬ。

著者の字は子興であり、さうして柳があるじに漢字を宛てれば松下亭となる。筆者涼竹陣人が字を子成、號を松月亭といつたことは、識語の末にある三箇の朱印の第三と第一とによつて證明せられる。兩者の間に何等かの關係がありはせぬかとの想像がそれからそれへと馳せる。然し我等は妄りに想像を逞しうしてはならぬ。飽くまで史實

に即いて行かねばならぬ。

卷末にある崎陽縣吏金井紀俊の跋に、著者を呼んで我僚友と稱してゐる。崎陽は長崎をいふ。紀俊明治二十年長崎年表三冊を著した金井俊行と何等かの關係あるに相違なしと推定し、家藏の縣令集覽を取出し、長崎御代官高木作右衛門の條を見たら、長崎詰の手代中にモ金井八郎、金井清之助の氏名が掲げられてゐる。モは元々の略符で、上位にある手代を指し、さうして清之助は長崎年表の著者俊行の通稱といへば、八郎清之助は親子で、跋文の撰者紀俊はこの八郎の諱に相違ない。然し自分の所藏する縣令集覽は慶應三年及び四年出版のものだけで、全巻を通じ内藤光備に相當する者は見當らない。彼は俊あるひを脱稿した安政三年から慶應三年までの間に退職若しくは死去したものであらう。一體舊幕府の御郡代御代官の氏名住地は、年々出版の武鑑卷三によつて検索し得るが、手代のやうな微官は省略せられてゐる。縣令集覽はこの省略せられてゐる部分を知るに必要缺くべからざるものでありながら、帝國圖書館の和漢圖書書名目錄初編から近年出版の五編までを検索しても一部も無い。僅に東大附屬圖書館和漢書書名目錄増加第二に文久三年版を一冊見出したのみであるが、之も大正の大震火災に焼失したらしい。日本に居て日本のことを探するのに、版本になつてゐる資料の検索にさへ、徒に時間を費さなくてはならぬとは、……

その書を読んでその人を知らざる時は、理解と興味とを缺くことは言ふまでも無い。自分は本書を手にして先づその識語及び序跋から著者に關する何者がを得んとして、前述の通失敗した。殊に焦鶴璞の序文については撰者の氏名さへ読みかねたことを告白する。字典を再三引いた後、漸く焦は鶴に通す。鶴鶴はさゞき、又はみそさゞいと稱する小鳥の名と知つた。偶々本書に佐々木藏書といふ朱印が捺してあるので、氏を佐々木名を璞といへる者の序文であらうと推定した。但し之は全く一種の聯想で、この藏書印が序文撰者のものでないことは勿論である。

著者の周囲から著者を知らざとした間接手段は無効に歸した。この上は直接手段を執り、著者の筆端から著者を知るより外はない。自分は一段の緊張を以て本書に對した。さうして得た所は次の如くである。

(一) 著者の父は彼同様御代官の手代を勤めた。

我カ父祖ノ勤メラレタル早川縣令稱八郎左衛門 勤功勳德モ……一六ノオ

早川八郎左衛門名は正紀、美作備中の御代官で、寛政七年美作國大庭郡久世村に典學館を、同十一年備中國小田郡笠岡村に敬業館を創設した。正紀任に在ること十餘年、享和元年江戸に遷任するに當り、郡民境を踰えて送るもの雲の如しこあるので、その人望が思ひやられる。文化五年十一月没す年七十、日本教育史料卷七
七八一八一二頁この良宰の配下にありし著者の父の通稱諱の不明なるは口惜しい。

(二) 彼は手代の家筋に生れながら、手代役を勤めるに先立ち蝦夷地に行役し、擇捉島に在陣したが、東西蝦夷地が松前家へ還附せらるゝに及び、歸東の途に就いた。

僕始メハ蝦夷ノ地ニ行役シ、後御代官ニ手代トシテ勤勉數十年……四ノオ

文政ノ始松前家へ舊領一圓返シ下サレントキ、僕ハ東夷ノ果エトロフ島ニ在陣シテ、彼ノ地ヲ同家ノ役人ヘ引渡シ引拂ヒシガ……九ノオ

寛政十一年幕府は東蝦夷地を暫定的に松前家より上地せしめ、享和二年七月暫定的を改めて確定的とし、その間及びその後において種々畫策施設する所があつた。委細は休明光記に譲つて此處には省略する。按するに著者は弱冠の頃、北地經營に關し、某年東都より派遣せられたる吏員の一隨行者として任に赴いたのであらう。さすれば彼の氏名が休明光記に掲載されてゐるからといつて別に怪しむに足らぬ。それから同人が擇捉島に赴任したは何年か、これま

た不明、文化四年露人の同島亂暴以後と假定するだけである。但し東西蝦夷地が松前家に還附せられたのは文政四年十二月で、同家の役人に事務引継を了した後、彼は同島を引拂つたのである。これから彼の手代生活が始まる。

(三) 彼は關東の御代官平岩家に勤務した。

僕三十年ノ昔、關東ノ御代官平岩家ニ稱右膳同勤タリシ館雄次郎ハ……六ノウ

依ふるひは安政三年の著述だから、それから三十年を遡ると文政九年となる。勿論三十年は大數であらうから、文政の半頃前後と解すべきだ。館雄次郎名は機、字は権卿、柳灣と號す。新潟の人で詩集柳灣漁唱三篇がある。筆書・獄訟・錢穀の間に一生を埋没しながら、自若として詩を喜んだは大いに推奨に値する。漁唱第一集は文政四年彼が六十歳を祝し、その近體詩百二十首を三女婿が摘刻したもの故、柳灣と同勤たりし子興は恐らくは之に目を寓したであらう。自分は柳灣漁唱三編を所藏しながら、柳灣の人物については殆ど知る所がなかつた。子興によつて教へられ、新なる興味を以て同書を再讀したことを感謝する。

(四) 出羽國寒河江^{サガ}の陣屋に在勤した。

僕が在勤シタル出羽ノ寒河江陣屋許ハ、楯西楯北楯南ノ三村ニテ一萬石ノ檢見村ナリ……七ノウ

在勤の年代は不明。但しこの前文に同國村山郡稻倉附の公料二萬石餘が、文政年間私領に渡つた所、公料の時代には在陣の手代僅に三人で事足りたに反し、私領となつてから役人二十餘人を要し、從つて郡中の入用も増加したといふ記事がある。之は著者が寒河江在陣中に目睹又は聞知したことと認めて差支ながらう。

(五) 天保三年夏彼は御廻米積立として出羽國酒田湊に出役、同所今町の遊女屋三十軒を破壊せんとて上陸せる紀州船の乗組員數十名を取押へ、領主酒井侯から重賞を受けた。

僕天保壬辰ノ夏、羽州酒田湊ヘ御廻米積立トシテ出役ノ折カラ……一九ノオ

これは著者自身相應得意とする事件であつたと見え、「此一件別記アリ、略^レ之」と註してゐる。領主酒井家は鶴ヶ岡に在城してゐるが、或は本件以來同家と著者との間に深い關係が出来し、鶴府城即ち鶴ヶ岡に住する松月亭主人が本書を手抄するに至つたものではないかと推量する。

(六) 天保年間彼は長崎御代官所に赴任し、勤續するもの十餘年、その間進んで元^メとなり、御家人に准ぜられ、また島津・細川・鍋島等九州六大諸侯の館入となつた。

僕崎陽ノ御代官所ニ勤務セルコト十餘年……二七ノオ

僕モ長崎勤役中元^メニ命ゼラレシ時、熨斗目白帷子着用若黨召シ連レ等ノヲ許サレ、彼地奉行所并御米藏等ヘ御代官ノ名代ヲ勤メ、御勘定方ト立會ノ場所ヘモ出勤、去ル天保十二年 文恭大君^{前將車}薨去ノ節ヘ、先例伺ノ上、

御家人ニ准ジ、七日ノ間長髪ニテ出勤シタルタメシモアリキ……一二ノウ

僕ハ藝ナシ手代ナレ^モ、長崎勤役中鹿兒島^{薩摩}熊本^{細川}佐嘉^{黒田}福岡^侯唐津^{小笠}原侯^{鍋島}嶋原^{松平}六家ノ諸侯方ヘ館入スル^モ……七ノオ

天保五年西國御郡代鹽谷大四郎役替の命あり、同人支配地は一圓長崎御代官預とあつたが、その節郷村受取のため著者は御郡代の陣屋所在地豊後の日田に在陣した^{二七}とあれば、著者の長崎赴任は酒田湊に出役した天保三年から日田在陣までにあつたに相違ない。また著者は天草陣屋の引受を命ぜられ、在任勤役すること數年^{一四}と言つて居るが、天草島は御郡代の出張であるから、長崎勤務の十餘年中に數ふべきであらう。

長崎を去つてからの著者の経歴は全く分らない。本書の自序に串江の吏隠があるので、序文を書いた安政三年には

依ふるひ

二三、(二三)

舊態依然手代を勤めてゐたものと推測せられるが、串江が不明である限り、搜索の手の附けやうがない。要するに内藤子興は實務の人であつて文筆の人で無い。然るに彼をしてその晩年の精根を俵ふるひの一書に集注せしめたは何のためか。彼は御代官手代を自己の天職と信じ、一生を捧げて悔ひざりしだけ、この役儀に對する先哲徂徠・春臺・竹山三家の誤解に著しく憤慨し、一書を著して之を粉碎せんと試み、さうして彼我の言ふ所孰れが是なるか、讀者宜しく俵を傾げてその内容を検定せよと冀ひ、題して俵ふるひといつたのである。

本書に引用してある徂徠の意見は政談卷一改「武家旅宿之境界」制度之事、卷二代官之役之事、御役與力ヲ頭之心儘ニ容ル事、并ニ御旗本諸役人ニ被召出之事の條に、春臺の意見は經濟錄卷五食貨の部に、また竹山の意見は草茅危言卷二奉行代官の條に見え、孰れも數行乃至十數行に足らぬ短文なるに反し、著者は滔々數萬言を以て之に報いてゐる。從つて三家の論旨が局部的斷片的なるに反し、著者の所説は湊合的連續的であり、引用した幾多の例證中には新しく吾人に教へる所が多い。由來地方何々と題する書籍は相應あるが、幕府直轄領の地方であるか、諸侯領の地方であるか、それさへ明記せられず、前者を支配する御代官及び手代の地位、俸給職務、任免、人物、賞罰等吾人が切に知らんと欲する諸點に至つては全く之を缺いてゐる。今度機會を得て本書を公刊した趣旨は、幾分なりと前記の缺陷を補充せんがためで、必ずしも三家に對する子興の駁撃を披露するためのみでは無い。

論争は得て激烈に陥り易い。卷末漢風學者に對する攻撃は一讀甚だ痛快であるが、記載の事實を全部眞實なりとは明言しかねる。

繰返していふが、著者は文筆の人でない。國語に宛てた漢字に妥當ならざるもの、送假名及び假名遣の誤謬矛盾等訂正を要する分も少からずあるが、現在は文意を達する以て主眼とし、成るべく舊態を存した。（昭和二二・六・三〇）

叙

道不同不相爲謀、信哉言也、三先生學識文章曠絕百代、不待論也、然而其於幕府吏事也、極口醜詆不知自他人觀之、則言多不當者、適足以取狂妄之名耳、信哉言也、内藤君子興嘗于役東西達錬事體、衆所知也、屬日君讀三先生所著書、而見其掣肘矛盾者不甚歎矣、因著一書駁焉、名謂「笔不留非、余受讀、凡數千言、鑿々有據、其笔所蓄不易測也、三先生烏得不鬼哭於泉下乎哉、吁余輩不可不戒也、

安政丙辰仲夏

焦鶴璞撰并書

自序

耳の及ざる處は、師廣が聰といふともきこえずしてありなん、目のおよばざるところは、離婬か明といふとも、見えずして有なまし、俵のうちに有ところの米性コメナシをしる事いかん、彼シカシがたはらのうちをばわれよく是をしらず、我たはらのうちをばかれも亦能シカシるべきところにあらず、不如其米のよしあしを言へんとならば、彼シカシをも是をも俵ふるひして、其よしあしは米見の鑒定に任せなんこそよけれ。

串江吏隱柳がものあるし述

倭不留非

歎坐徂徠方政談、太宰純方經濟錄、中井積善方草茅危言、右三書ノウチニ御代官手代ノ身行ヲ、駁駁誹謗スルヲ各數箇條、僕モ亦之ニ對シテ云ヒタキノ數々アレバ、默止モエヤラズ、彼ヲ抄シ是ヲ記シテ、其志ヲ述ル事左之通り、政談ニ曰ク、當時ハ小身者ヲ御代官ニ仰付ラレ、其身ハ在江戸ニテ手代ヲ差ツカハスユヘ、種々ノ奸曲アリ、又御代官其所ニ住ムトモ、小身ナルニハ公事ノ裁許モナラズ、小身ニテ武威^威ナケレバ、盜賊ナドヲ鎮ムルヲナルマジキ也云々、當時ハ輕キ手代類ノ者ガ、所々ニテ吟味ヲスルユヘ私曲ノミ多シ、代官ト云役ハ至テ重キ役也、今ハ地方ノ支配トナリ、小身成モノヲ申付、シカモ其下司ハ手代ド稱シ、殊ノ外ニ賤シキ者ヲ付置キ、年貢取立ヨリ外ニ肝心ナル「無之ト心得ル」、以ノ外ノ事也、其身立身ノ望モナク、下劣ナル役義ト云コニ成テ、然モ小身ナルニヘ、オノヅカラ奸曲ヲシテ御仕置ニ逢人モ絶ヘタ也云々」^{ニウ}願クハ二三千石位ノ人ヲ申付^{御代官ヲサシテ云也}、役義ノ名ヲ替ヘ、下役ニ代官グラキノ人ヲ申付、武備モオノヅカラ備ハルヤウニシハ、刑罰ヲモ輕キハ其所ニテ執行ハセ、民間ノ治メヲ第一トシ、農業ノ筋ヲモ民ノシラヌヲアルヲバ、コレヲ教ヘ、川除堤普請ノ類ヲモ申付、盜賊博奕ノ類邪宗邪法ノ類ヲモ是ヲ押サスベシ、又與力御徒等ノコヲ論ジタル箇條ニ、勵キ業ヲ好マザル生レ付キナラバ、手跡ニテモ算用ニテモ習ハセ、御代官ナトニ付ケツカハシ、手代ノ代リニシテ隔タル國ヲモミセ、山川地ノ理ヲシラセ、田舎ヲモ走リ歩キタラバ、當時親ノ懷子ニテ御城下ニテ育チ、ナンノワケモシラヌ^{西尾}アホウニハマサルベシ、

經濟錄ニ曰ク、代官ノ秋成ヲミルニ、今ノ俗ニ毛見ト云、代官ノ毛見ニ往トキ、其所ノ民數日奔走シテ供具ヲ營ミ、道ヲハラヒ、館舍ヲ洒掃シ、前日ヨリ種々珍膳ヲ調ヘテ其來ルヲ待ツ、當日ニハ庄屋名主ナド云モノ、人馬肩輿ヲ率

テ、境迄出迎フ、館舍ニ至レハ種々ノ饗應ヲナシ、其上ニ進物ヲ獻シテ其歡樂ヲ極メ、手代^{三才}ラハ云ニ不及、僕從ノ至テ賤キモノ迄モ、其品ニ隨ヒ、夫ニ金銀ヲ贈ル、如此スル其費ヘ幾許ト云コヲ不知、モシ少シモ彼ラガ心ニ不満アレハ、色々ノ難題ヲ以其民ヲ苦シメ、其上ニ毛見スルニ及テ、下熟ヲ上熟ト云テ免ヲ高フス、モシ饗應ヲ厚クシ進物ヲ貴クシ、從者ノ賤奴迄モ賄賂ヲ多クシ、彼ラガ心ニ満足スレバ、上熟モ下熟ト云テ免ヲ下グスル也、是ニ因テ里民萬事ヲ閣テ代官ノ悅ブベキコヲ計ル、代官ノ毛見ニユク、其利甚多シ、從者迄モ數多ノ金銀ヲ取ル、是皆上ノ物ヲ溢ム也、毛見ノ時ノミニ非ス、平日モ民ノ許ヨリ代官并ニ小吏^{三才}ニ賄賂ヲ輸フ事頗ル夥シ、故ニ代官ノ輩皆小錢ナレ^{正富}封君ニ埒シク手代ラニ至迄、僅二三口ヲ養フホドノ俸ニテ、十餘口ヲ養フノミナラズ、距萬ノ金ヲ蓄テ^{シテ}終ニハ與力又ハ旗本衆ノ家ヲ買取テ華麗ヲキハム也、如是代官ノ私曲ヲナシ、民ノ代官ニ賄賂ヲ輸フ狀ハ、純ムカシ久シク田舎ニ住テ、親シク見キ、シタルヲ也、是偏ヘニ見取ヨリ起レリ、民ノ痛^ミ國家ノ害ト云ハ是ナリ、定免^{三才}ナレバ毎年ノ毛見ニ不及、定レル免ノ如ク奴納スルヲ相違ナシ、然レバ民ヨリ代官ニ賄フモナケレバ、小民ノ役使セラル、コモナク、金銀ノ費ルヲモナギユヘ、民ノ苦ミナシ、故ニ少シ高免ニ取テモ、定免ハ民ニ利アリ、毛見ト云コナケレバ、代官ヲ置クニモ不及、代官ニハ口米ト云フ有テ、許多ノ米ヲ上ヨリ賜ハル、代官ヲオカザレバ口米出デス、是亦國家ノ利也、今世ノ田租ノ法定免ニ勝ルヲナシト云ハ是也、大聖人禹ノ法ナレバ言フモ愚ナルベシ、草茅危言ニ曰ク、奉行職ノ屬吏ニ與力同心アリ、代官ノ屬吏ニ手代アリ、皆地付ノ身ニテ掌故ニ熟シ世機ヲ諳スルユヘ、因縁シテ姦ヲ營ム「限ナシ」、何レモ不學無術ナガラ、ノタマニハ溫厚質直ナルモアレビ、往々才ニ短シ、才能アルハ奸智逞マシ、行義才力拙タルハ至テ稀ナルベシ云々、右ノニ職ハ重任ナルニ、祿秩ハ過輕シ、ソレユヘ其人ニ譖代ノ家來トテハ塵カニテ役人足ラズ、職任ヲ受タル日俄ニ抱入アルニヘ、ソレヲ望ンデ住込モノニ、循良清廉ノ人ハ少ナ

ク、大カタハ姦詐貪婪ノ徒」ナリ云々、奉行職ハ三千石以上七千石迄ナルベシ、代官職ハ千石以上二千石迄ナルベキ
賊、自分ノ家來ヲ屬吏ニ立ナラバセ、日々其懸引ヲ熟察シ、姦ヲ容ルニ地ナカラシメ、或ハ手代ヲ召抱ヘズ、我家來
ヲ以其代リヲ務メサスルカ、又ハ中ニテ頗ル淳良亡害ト見ユル手代ヲ一兩輩抱へ、其餘ハ皆ヤメテ可ナルベシ、
右ハ三子論說スル處ノ文面ヲ摘ム「如此、イヅレモ同意合駄ノ毒口謗訕、毫毛忌憚ル處ナシト云ベシ、是ラノ徒御代
官手代ニ對シ、何ノ遺憾アリテカ、斯マデ人ギ、ワロキ謬聞トモラ錄籍ニ書トメ、臭ヲ千載ノ下ニ流傳セントハ
モクロミケルニヤ、由テ生ズル處ヲ知ズ、僕始メハ蝦夷ノ地ニ行役シ、後御代官ニ手代トシテ勤勉數十年、カ不テ此
三書ヲ閱ルニ、甚心ニコ、ロヨカラズ、今其人ハナシトイヘビ、カバカリノ耻辱汚名ノ世ニヒロゴリ残リシヲ、其マ
、見スゴシ置キナンフモ、アマリニ殘悔ノヤルカタナサニ、聊思フ旨ヲ書ツマリ、ソノ冤ヲ清メントス、是ヲシモ忍
ブベクバ、イヅレヲカ忍ブベカラシヤ、先ツ此惡言ノ發端ト云ハ徂徠也、」徂徠ニ尋テ其意ヲ追増シタルハ門人ノ純
ナレバ其口眞似モ縁據ナキニハ非ズ、但積善ハ遠クホトボリノサメタル世ニ生レナガラ、其存念ヲ受ツギテ、尾鰭ヲ
加入シタルハ何ノ意ゾ、殊更奉行職ハ三千石以上七千石迄ナルベシ、代官ハ千石以上二千石迄ナルベキ歟ナドハ、前
ニ皆徂徠ガ云並ベオキタルヲ、已ガ思ヒ付ラシク書載セタルモ、未熟不手際シ尻馬乗ト云ベシ、撫ジテ農ノ事ハ老圃ニ
シカズ、船ノコハ船頭ノ知處、其至ルニ及デハ、聖人トイヘビ知サル處アリ、手代ノ司役境界ヲバ紙上ノ空論ヲ事ト
スル迂儒ノ、争デカ窺ビ知コラ得ン、抑御代官手代ヲイカナルモノト思ヘルヤ、小吏賤官ハ素ヨリ差知レタル身ノ上
不及言、手代トサヘ云ヘバ小身微俸ナルニヘ、私曲賄賂ニ拘ルトノミ思ヘルハイカニゾヤ、夫レ手代ノ身分ハ輕シト
イヘビ、大政ノ片端ニモ携リ、公義ノ御爲筋ヲ第一トシ、忠勤ヲ勵ミ、正道ヲ明カニシ、百姓ノ歡苦ヲ察知シ、邪
・曲ヲ判斷スルヲ以職業トシ、又止事ヲ得ザルノ時ニ當リ」^{五才}テハ、大切ノ人命ヲモ、一筆ノ先キニ殺スノ法モ有ルゾカ

シ、是皆我黨ノ司役トスル處ノモノ也、去レバ其掌ル處、彼ラガ如キ有名無實ノ死物ヲ以物種トシタル不用ノ用ニ非
ズ、苟クモ今日ノ生物ニ對シテ、臨機應變其圖ヲハヅサムル有用ノ用ヲ以テ本務トスル、ソノ差別雲泥萬里論ヲ待ズシ
テ明カナリ、又御代官ヲ小祿也ト云ヘ、其昔源九郎義經ヲ賴朝ノ御代官トセラレシナド舊記ニ見エタルヲ目アテトシテ
彼レト是トノ場合ニチガヒアルヲ以テノ言ナルカ、當時モ朝鮮人ナドハ、奉行ヨリ御代官ヲ重職ト心得尊敬スル由、字
義役名ニ於テハ左モ有ラバアレ、假令小祿小官タリビ、其役義ヲ命ゼラレ、其職掌ニ相應スルニオヒテハ、小祿タリ
トテ何ノ妨カアラン、大祿モ小祿モ共ニ時勢ノ然ラシムル處ニシテ怪ムニタラズ、殊ニ御代官ノ御役ニ於テハ、自餘
ノ御役入トハ差別アリ、其支配高ニ准ズルノ格式アリテ、持高ノ多少ニ不拘、大名ト縁組ノ例アリ、近クハ長崎ノ御
代官高木氏ヘ、豊後國日出ノ城主木下侯^{五萬石}ヨリ息女ノ嫁娶アリ、高木家ハ持^{五万石}高纏二百石ノ小祿也トイヘビ、僕
ガ勤役中天保年間ニハ、日田郡代鹽谷君御役替ノ跡、一圓御預所ニ命ゼラレ、從來ノ奉地ニ合シテ兩肥筑前兩豐日向
六國ノ内、十五萬石余ヲ支配セラレタリ、大名トノ縁組イハレナシト云ベカラズ、是ラモ重職ノ名残ナルベシ、江州
ノ御代官多羅尾家ナドハ昔年先代ノ領地ナリシ數萬石ノ地方ヲ、放有テ、公義ヘ召上ラレ、後支配所ニ命セラレテ、
今ニ至ル迄代々是ヲ支配セラル、由、是ラハワケテ由蹟歷々ノ大家ト云ベシ、又小祿ヲ以勤ルニハ、小祿ノ手段掛
引不虞ニ備ルノ用意法則モアリテ、一切ノ「ニ手タケ差ツカヘ有コトナシ、譬ヘバ反逆人一揆徒黨ノ者アリテ、其支
配所ノウチ、不時ニ千萬人蜂起騒動スルヲアルトキハ、近隣最寄ノ大小名ヘ御代官ノ印書一封ヲ飛バスレバ、即時ニ
召捕ノ人、數ヲ差向ケラル、ノ手配アリ、其他臨事非常ノ指揮方便、コト^ハク遺漏アルコトナシ、又手代タル者ノ職
事ニオケルヤ、天文、地理、政事、律令、文武ノ兩道、神儒佛ノ三教ハ言フニ及バズ、^{六才}測量、算勘、醫術、水練、書
畫、茶香ノ式法、其餘些細ノ技藝、博奕盜賊ノ所爲ニ至迄モ、一切コレヲ辨別シ、ヒロク學ビ審カニ問ヒ、上王公尊貴

ヨリ下モ萬民卑賤ノ性情ニ互リ、百鍊千鍛ノ功ヲ積ムニ至ラザレバ、手代一人トハ云ヒガタシ、勿論藝ニテハ決シテ手代役ハ勤メガタシ、其ツトメガタキ子細ヲイカニト云ニ、些口廣キ申シ分ナガラ、忝クモニ天ノ君ノ行幸ノ供奉ヲ始奉リ、御所御用及び御普請掛^フ、將軍家御上洛、日光御社參御用掛^フ、諸侯方ノ國替領分替城請取渡^ミ、諸家ノ詰米改、朝鮮人來聘、國役取立、御國繪圖調、御貸附等ノ御用向ニ至迄モ、其下流ニ居テ百般ノ御奉公ニ關ラザルコナシ、其司役トスル處ニ於テハ、或ハ關八州御取締、論所地改、傳奏屋敷詰、唐阿蘭陀御用物掛^フ、兵糧掛^フ、石原家高木奉行等御備場掛^フ、長崎御備場臺場等ニ手代ノ掛^フリ分ケアリ、又ハ地方、公事方、檢地、檢見等ノ吟味物ニ付テ、諸國ヘ出是ナリ御備場掛^フ江川家ノ手代ニ御鐵砲掛^フアルノ類是ナリ、役セラル、處ノ御役人方ヨリ、手代ノ人撰取人ト云「有テ、其」調方ヲ命ゼラル、等ノ例モ常也、其他風水、旱損、饑饉等ノ凶災ニ臨デハ、濟世救民ノ心術ヲ盡ス「他ニ讓ズ、御進獻公義ヨリ京伊勢日光ノ三所ヘ御上リ等ノ瓜ヤ西瓜ノ御用ノ莫迄^(莫迄)、悉ク手代ノ取扱ハザル物トテハナシ、尙日用ノ事務辦用ニ於テハ、干差萬別筆頭ニ盡スペカラズ、唯其大略ヲ舉ルノミ、僕三十年ノ昔、關東ノ御代官平岩家^三稱石^{同勤}勤タリシ館雄次郎ハ^{六ウ}號柳灣^ノ詩文印刻ノ高名^ノ越後ノ新潟ニ生レ、民間二人トナルトイヘドモ、天稟ノ英才出藍ノ器量乏シカラズ、其志ヲ立ント思フノ日ニ工夫ヲメグラシ、今太平ノ御代ニ庶人ノ身トシテ世ニ勤甲斐アルモノハ、御代官ノ手代ニシクハナシト心決シテ、字ツク年ノ頃ヨリ小出君ニ^助出勤シテ年代トナリ、二十三歳ニシテ、頭役衆ヨリ小出君ヘ内命ノ旨アリテ元ベニ拔擢セラレ、尋^{ヒキテ}手附ニ召抱ヘラレ、老年致仕ニ及^ゲマデノ勤功令名カゾフルニイトマアラズ、斯ル人傑モ手代ノ賤官微俸ヲ厭ハズ、生涯ノ勤勞ヲ以本意トセシ、手代勤ノ勤メ榮アル妙所妙用ヲ知ベキ也、サレバ祿ヲ世々ニスル普通ノ吏役トハ事替リ、其勤勞勉強中々容^{七オ}易ノ「ニ非ス、才覺次第腕骨^八次第、日勤多忙ノ駆廻リ場所、昨日案上ニ筆ヲ執ルカト思ベバ、今日ハ山野ニ奔走シテ、須臾モ靜座安眠ノ暇有コトナシ、如^レ此其業ヲ知リ其事ヲ務ムルヲ以、手代ノ本務本職トス、故ニ

近境鄰端ノ大小名家ニ事アル時ハ、多ク我黨ノ者ニ尋問シテ、其事ヲ取計ラフノ龜鑑トシ、或ハ大家摺紳ヨリ御用賴等ノ名目ヲ以好意ヲ結バレ、主侯へ謁見ノ例モ少ナカラズ、僕ハ藝ナシ手代ナレハ、長崎勤役中鹿兒島^{薩摩}熊本^{細川}佐嘉^{鍋島}福岡^{黒田}唐津^{小笠}鳴原^{松平}六家ノ諸侯方へ館入スル「皆右ノ振^ヒ合^ハ」^ニ以セリ、其他ノ事ハ准ジテ^テ知ルベシ、彼ノ螢雪ヲアツメテ虛名ヲ賣リ、錢帛ヲ出シテ及第ヲ願ヒ、炬燧兵法^{タク}圃水練ヲ事トスル漢學者流ノ屬ニ非ス、又株ヲ求メテ勤メラルベキ役義ニモ非ス、古人モ云ヘル「アリ、不観玉淵者、未知驪龍之所^ニ蟠ト、只我黨ノ勤メ方ハ我黨ノミノ知處ニシテ、盲人ノ垣ノゾキスル^ヒ何ゾ其玉淵ヲ観^ヒ知ベキ、然^ヒ事ノ序ナレハ、其勤功ノ他ニ勝レタル一二事ヲ舉テ、三儒鬼亡靈追惡供養ノ爲ニ」^{七ウ}コレヲ説示スベシ、文政年中出羽國村山郡柏倉附^村ノ公料ニ萬石餘私領ニ渡リシガ、其地ニ在陣ノ手代三人、私領ワタシノ後、コレニ代ル諸役人廿餘人ニ及ビ、郡中入用モ人數ニ准ジテ倍^ヒシ、迷惑ニ及ケルトゾ、是イガナルユヘゾト云ニ、私領役人ハ一役一人ニ^ハ多ク、手代ハ一人ニテ繪ニ踏繪奉行ト唱フル役人ヲ始メ、其掛^フノ下司僕從ニ至ル迄、人數三十人程ニテ一箇月斗ノ間連レ廻リ、村々ノ諸雜費夥シク痛入シガ、御代官所ニ成リタル以來、東西へ手分シテ手代一人足輕小僕兩人ヲ召連レ、廻村ノ日數ハ五七日迄、悉皆手輕ニ事スミ、一郡舉テ歡アヘリ、又僕方^ニ勤シタル出羽ノ寒河江陣屋許ハ、橋西橋北橋南ノ三村ニテ一万石ノ檢見村也シガ、秋ゴトニ御代官下向シテ檢見アリ、例年半日ノ間ニ廻村アリテ、春法升廻ハシ改メニ至迄、其日内ニ事スミクリ、是亦私領所檢見ノ振り合^ハ見合セナバ^{私領^ハ既^ハ既^ハ}人數モ日數モ十倍シ、雜費ノ多寡モ亦准シテ莫大ナルベシ、是ラヲ以テモ思ヒ見ヨ、公義ノ御用方ニ寄テハ、強チ大身小身ニ不拘御用辨ヲナシ、御威光ヲ示スノ差別ハ

有ヘカラズ、差別アラズンバ大身ヨリモ小身ニ命セラル、ヲ御益トスベシ、現ニ大小身ノ差別ニヨリテ、公義ノ御入用、郡中ノ諸雜費ソコバクノ相違ト成フ、算ヲ用ヒズシテ分明ナルベシ、當時ノ御代官ト云ハ、從僕僅ニ七八人、手代ハ一僕ニ兩掛一荷ヲ齎シテ、八百萬石ノ御用辨事足レリ、能ク他領他場所ノ比類スル處ナランヤ、故ニ御代官ヲ小身トナシオカル、ノ御趣意ヲモ恐察シ奉ルヘキ」也カシ、

附テ云フ、譬ヘバ材木ノ尺ダラ仕出スノ算法ハ、開平開立ノ術ヲ以テセザレハ知ヲアタハズ、然ルニ今御代官所ニハ八算見一ヲサヘ覺ユレバ、尋常ノ乘除ヲ以テ之ヲ仕出スノ算法アリテ、却テ開平ノ手數ニ優レル、一日ヲ以一刻ク隙ニ掛ケ合フベシ、其外ニモ種々早算辨利ハ法ヲ工夫仕出シテ、今ハ公用ニ開平ノ手數ニ優レル、一日ヲ以レバ」我黨ノモノハ此早算ノ法ニヨリテ、別ニ其術ヲ習練スルモノ稀ナリ、是ヲ件ノ大小身ニ比ベテ云ハ、開平ノ法ハ大身ノ如ク早算ノ法ハ小身ノ如シ、其用ヲナスノ約ニ至テハ同シ「一ナリトイヘキ、大ニシテ迂遠ナルモノヲ取シヨリ、小ニシテ捷徑ナルモノヲ取ルコソマシナラメ、又云フ、爰ニ貧居ノ病人アリテ、其タノムベキ醫師兩人アリ、コレヲ招待セントスルニ、一醫ハ大家厚重ニシテ、輜夫藥籠モチ等ノ手アテ、及ビ主僕數人ノ賄方ニ至迄、ソコバクノ手數雜費ヲ掛ケザレバ來ラズ、一醫ハ小家輕狷ニシテ、人夫賄ヒ等ノ用意ニモ不レ及、人サヘヤレバ一身ニテ奔走來往ス、而シテ其醫術ニハ甲乙ナク、配濟スル處ノ藥法モ兩醫共ニ同案同品、主治ノ効驗モ亦同様ナランニハ、何レノ醫師ヲ迎フルヲ辨利トカスル、彼三儒子ニ之ヲ問ナバ、必大家ノ醫ヲ迎ヘヨト云シ歟、可レ笑、先年天保天草一郡薩摩領ニ可成トノ風評、誰レ云フトモナク、云傳ヘ語リツタヘテ、後ニハ家ミニ其尊喧シク、郡中ノ人氣コレガ爲ニ不穏、遂ニ歎願ノ書ヲ役所ヘ捧ゲテ、私領渡リ御免ヲ願出タリ、右ハ全ク根モナキ浮説ニテ、サルコノ有ベキ時節ニモアラザレバ、利害ヲ説サトシテ安堵ニ至ラシメタリ、是ハ元ト島原侯ノ御預リ所ヨリ御代官所

ニ成シ土地ニテ、何レニナリテモ同ジ公料ノ地ナリトイヘキ、却テ奉行ヨリモ遙カニ大身タル大名ノ支配ヲ好マズ、小祿ノ御代官支配ヲ慕フハイカ成ユエゾ、是其支配タルモノ、取計向ノ可否ニ依テ、人氣ニ歸依不歸依ノ差別アルガユエ也、

去ル文化年中松前蝦夷ノ地一旦公料トナリ、文政ノ始松前家へ舊領一圓返シ下サレシトキ、僕ハ東夷ノ果エトロフ島ニ在陣シテ、彼ノ地ヲ同家ノ役人ヘ引渡シ引拂ヒシガ、其折カラ夷人ドモヒタスラ落涙啼泣シテ、公義ノ御仁惠ヲ思慕シ奉リ、舊主ナガラモ手薄ナル取扱ヒノ昔ニ復ラシコラ厭ヒ哀ミタリシゾ、其事ガラハ天草モノ、御料支配ヲ慕ヒタルノ意味ト相同ジ、和ト夷ト國土ノ相違ハアレヒ、人情ニ於テハコトナルナシ、此蝦夷地ノ治メ方御仕法モ御代官所ノ振合ニ」本付テ、奉行職ヲ松前ニ居オカレ、四方ノ邊塞ヘ其屬役ノ人ミヲ差向ケラル、「、手代ヲ陣屋ヘ差ツカハシ引受サスルノ類例ニ效ヘルコトキコエタリ、是ラノコトモ思ヒ味ハフベシ、其處ニヨリテ奉行ヲ差オカレ、御代官ヲサンオカレ又屬役下司ヲ差オカル、「、譬ヘハ家ヲ造ルニ大小ノ材木ヲ分ケ用ルガ如ク、其大小材モ皆同じ御懷ヘヨリ出タル差略モノ成フヲ知ルヤ否ヤ、彼ラハ唯大身ト小身トノ見クラベノミヲ目當トシテ、其大小身ニ程々ノ當ハメ處アルノ道理ヲ知ザルコソ愚ナレ、

去レバ、公義ノ御仁惠ノ厚重ナルコトハ素ヨリ云フニ及バズ、御代官所ヘ其御仁惠ヲ播オヨボスノ役ハ則御代官ニシテ、ソノ又下司ハ手代ナリ、シカアランニハ主役トスル處ノツトメ方其圖ニ叶ヒナバ、小身タリトモ豈大身ノ行フトコロニ耻ザラメヤハ、又定免ハ民ニ利アリ、毛見トイフコトナケレバ代官ヲ置ニモ及バス云々、是ハ徂徠ガ年貢取立タヨリ外ニ肝心ナルコトハコレナシト心得ルコト、以ノ外ノコトナリト言シ醜言ヲ純ガ胡椒丸香ミニ引ウケテ、御代官ハ唯年貢トリタデノ用ノミニ差置ル、モノト合點シタルモノオルベシ、假令定免村バカリナレバトテ、御代官・

ヲオカレズシテ、數百里先迄ノ御年貢取タテ公事訴訟ヲバイカニトカスル、村役人ヨリ直納直訴サスベキ歟、百姓銘タヨリ持出サスベキ歟、又定免村ニハ檢見ハナキコト、思ヘルモ、一向無智ノ素人了簡、ソノ上ニ見取トイフモノヲ檢見取ノ同名目ト心得タル不案内ノ書ギザマモ見エテ、別シテヲカシ、檢見取ハ高内ノ物、見取ハ高外ノモノト云フ事ヲモ知ラヌト見エタリ、地方ノ名目ヲモシラズシテ、地方ノ論ヲイハント思フハ、所謂井蛙ノ管見、盲目蛇ニ恐ザルノタグヒ是ナルベシ、據シテ定免ハ民ニ利アルヨリモ、公義ニ御益ノ有ル子細アレバ、檢見村ヲシテ定免村ニ願ハセタキモノナレモ、僕ヲガシリタルトコロノ村々ハ、曾テ一村モコレヲ願出タルコトナシ、却テ定免村ヨリ願テ檢見村トナリタルハ有リ、其外年ノ凶作ニ寄テ、定免村ヨリ破免ヲ願出タルハ其數ヲシラズ、又代官ヲ置カサレバ口米出ズ、國家ノ利也ナド書ノセタルモイカ、是口米ノ出ベキ根元ヲ知ザルユエノ僻言ナリ、口米ハ元口永ト同ク、御代官ノ有無ニ拘ラズ、」御年貢ノ米金高ヘ掛ケタル掛物ニテ、年々公納スベキ定法ノ品ナリ、昔ハソレヲ以御代官ノ諸入用ニ充行ハレタリシガ、後御趣法替ヘアリテ、諸入用ハ米金渡リトナリ、口米永バ、公義ヘ納メラレ、タゞ私領ノ御預リ所ニ成トキハ、今モ口米永ヲ以諸入用ニワタサル、コト、成來リタルナリ、然ルヲ御代官ヲサシオカレザレバ、口米モイダスニ及バズト心得タリシハ、事ヲワキマヘザルノ云ヒカタ也、又今世ノ田租ノ法定免ニマサルコトナシ、大聖人禹ノ法ナレバ云フモ愚カナルベシトハ、就中搾腹ノ論ト云ベシ、全駄檢見村モ定免村モ、欲徳勘定ニ拘リテ取極リヲ付ケタルモノニ非ズ、村里ノ善惡地味ノ甲乙ニヨリテ、オノヅカラ差別ノ付キタルモノナルヲ、タゞ一概ニ定免ニサヘスレバ世話モカヽラズ、宜キコト、思ヒコミタルハ、一向ワキマヘナキ押付ケ推量論ズルニタラズ、大聖人ノ法ナリトモ、禹ノ教ヘナリトモ、圓キトコロヘ三角ノ物ハアテハメガタシ、是ナシ琴柱ニ膠シテ琴ヲ弾ジ、船ベリヲ刻ミテ劍ヲ探ラントスルノ族ナルベシ、彼ノ徒ヤ、モスレバ禹ノ法周ノ制ナドヲ以テ口實トス、明ノ國初或

人廟ヲ祭ルニ籠豆ヲ以スル」^{一ノオ}太祖ニス、メシニ、我ガ祖先生ル、日此器ヲ不知トテ、太祖ハ用ヒラレザリシト、何ノカ書ニ見タルヲアリ、彼國ノ人サヘ、時宜ニヨリテハ彼ノ國ノ禮ヲ用ヒズ、時ニ古今アリ地ニ異同アリ、晉朝又定期正法アリ、何ゾヤ異郷ノ書籍ニ引アテ、事ヲ辨スルニ及ブベキ、今時ハ唐モ昔ノ唐ナラズ、天竺モ昔ノ天竺ナラズ、マシテ和漢ノ國チガヒ時世チガヒニ於^(テ既)ヲヤ、是ヲ名ツケテ掲子定規ト云ベキナリ、コレラノ「ニ付ケテ一笑話アリ、南嶺子ノ隨筆ニ何某殿ノ御内ニ三十人扶持ヲ賜リシ儒者アリシガ、常住座臥ノ口癖ニ、彼周禮漢制ガ好物ニテ、飲食器財ニ至迄皆唐風ニ製作シテ和製ヲ不用、脇差ヲ諸刃ニシ、モノサシニハ周尺ヲ用ヒテ、人ノ異見ヲモキカザリケレバ、重職ノ人コレヲ憎ミテ、或時其儒者ニ面會ノ折リ、扶持方タ波シノ談ニ至リテ云ケルヤウ、五穀ヲ量ル升周ノ制ハ考ヘガタシ漢ノ升ヲ考ルニ、日本ノ一合ヲ以一升トス、漢書ニ牛一匹ニ三十六斛ヲ駕ストミエシモ、日本ノ三石六斗ニ當レバ、足下ノ三十人扶持一年ノ高五十四石ナレモ、周漢ノ制ヲ好マルレバ、之ヲ漢法ニ直シ、五石四斗ノ割合ヲ以相」^(二ノウ)渡スヤウニト藏方ヘ申渡スベシ、足下ニモ漢流ニテ之ヲ受トラル、ノ段、祝着本望ナルベシト有ケレバ、儒者ハ仰天當惑シテ、ソレニテハ家内十餘人ノ飯米ニモ不足、幾重ニモ誤入シトウビゴトシテ、ソレ以來ハフツヽ唐流ヲヤメニシタリトゾ、彼江戸ヨリ品川ヘ轉宅シタル儒生ノ唐ヘ二里近ヨリタリトテ歎ビシ由、是ラノ徒ト同穴ノ漢風狐ナルベシ、

脩又手代ハ下劣オル役義ナレバ、其身ニ立身ノ望モナシナド、ハ、世間シラズノ云ヒ分也、彼ヲガ存生ノ元祿前後ニモ手代ノ立身不珍、トリワケ積善ナドハ在世中、寛政年間白川侯執政中、仰渡サレノ御趣意有テ、自今以後手代ノ身分御抱席ノ御家人ニ准ズベキノ旨、據御代官中ヘ觸達有之、夫ヨリ新規ノ手代勤メヲ禁止セラレ、手代ノ家ニ非ズシテハ手代ニ出ルヲ不能、又手代ノ立身ト云ハ、新田開發等ノ功ヲ以御家人トナリ、勤功ニヨリテ御直參ニ召抱ヘラ

レ、後御旗本ニモ昇進シタルノ類不少、近頃立身ノ手附手代手附手代名目ハ異ナレ打ヨミ勸差別ナシニハ出羽ノ一機駆動ヲ取鎮メシ市村宗四郎、手代ヨリ御家人ニ召抱ベ」^(一三〇)、荒井平兵衛殿ハ手附ヨリ御代官迄昇進、松井助左衛門殿ハ同ク御勘定吟味役ヘ昇進、其他手代ノ腹ヨリ出テ、今現ニ芙蓉ノ間席諸大夫ノ御役人ニ昇進アリシモ有ケル也今時ノ「ユヘ憚テ不錄姓名」猶此外ニモ枚舉連アラズ、略レ之、是ヲモ立身ナラズト云ンカ、將立身ノ望ナシト云ベキカ、

今江戸馬喰町御用屋敷ト唱フル三分ノ御代官所ハ、元ト關東御郡代官今關伊奈右近將監一緒ノ支配也シガ、寛政年間故有テ是ヲ止ラル御勘定奉行ヨリ兼帶トナリ、復御仕法替ヘニナリ、御代官五人支配ヲ伊奈家ハ祿四千石ノ大家ニテ有ケルナリ、後千石ニテ御代官ニ召シ由サル則祖徳積善ラガ云フ處ノ千石マテノ注文ヨリ二千石マテノ事ナリ、伊奈家ハ祿四千石ノ大家ニテ有ケルラナレバトイヘニ御代官名目ノ時モ有之也、關東御郡代ハ非此列、カタノ如ク大家ヘモ支配ヲ命ゼラレシカニ、三分^(一三一)ハ小祿ノ御代官トワカレタルハ、御趣意アリテノ事ナルベシ、外ノ御代官ノ小身ニテ差オカル、コモ准ジテ可レ知カ、レバ始ヨリ御代官職小祿ニ限ルニ非ズ、今世モ猶多羅尾家、後ノ伊奈家ナド、千石以上ノ祿ニテ、小祿ノ宜トキハ小祿ニセラルベシ、公邊ニウトキ儒生ノ輩ノ恩存ヲ以、嘴ヲイレンノ片腹イタシ、サレバ馬喰町ノ三分ハ別段ノ場所ニテ、手代モ重モ手代ニ至レバ御普請役格ニ命ゼラレ、其他小堀京石原^(大津江川豆多羅尾江高木崎等)等ノ數家ハ代々土着ノ御代官ニシテ、各格別ノ舊家タルニヨリ、手代モ亦ソレノノ格合ヒアリ、僕モ長崎勤役中元ベニ命ゼラレシ時、熨斗目白帷子着用若黨召連レ等ノコラ許サレ、彼地奉行所并御米藏等ヘ御代官ノ名代ヲ勤メ、御勘定方ト立會ノ場所ヘモ出勤、去ル天保十二年文恭大君薨御ノ節ハ、先例伺ル上、御家人ニ准ジ、七日ノ間長髪ニテ出勤シタルタメシモアリキ、然ルニ同所ノ唐通事ドモカネテ帶刀熨斗自着用ヲ望願スルコ年アリシガ、奉行所ヘ内意ヲ申

込ミ、唐通事ハ海外ノモノト應接ヲナス外見モアレバ、自餘ノ役人トモ譯チガヒ、別段ノ格合ヲモ蒙リタク、就テハ御代官手代サヘ、元ベニ至レバ慰斗目若黨ヲモ許サル、ノ例アレバ、通事モ大通事ニ命ゼラレ^(一三二)シ者ヲバ、右ノ振合ニ格式ヲ賜リタキノ旨及内願タリシガ、時ノ家老大ニ憤叱シテ、通事ニハ通事ダケノ分限アリ、御代官手代ニハ手代ノ身分アリ、手代ハ小吏輕輩トイヘニ、御政事ノ片端ヲモ取扱ヒ、御用向ノ勤方モ格別ニシテ、唐人ノ取次役ナトニ及バ、却テ其身ノ越度トナルベキゾト、タシナメラレケレバ、一言モナク屈伏シテ、年頃ノ望ミヲ思捨タリシトゾ、是ラノ諸説ヲ照シ合セテモ、手代ノ手代ツトメタルユエシヲ知ベキ也、因ミニ云、手代ノ名目ハ今御料私領町人ニモ有リトイヘニ、其濫觴ハ御代官手代ヨリ起レルナルベシ、イカニトナレバ、手代ト御代官ハ君臣ニ非ズ、頭人下司ニモ非ズ、而シテ其從事スル禮遇ニ於テハ、君臣ノ如クニモ見ヘ、頭人下司ノ如クニモミユ、手代ハ則手ガハリノ意ニテ、御代官ノ手ニ代リ勤ムルノ名目、前キニ云御代官ノ名代ヲ勤ル等ノコラ以、當然ノ義ト云ベシ、又手代ノ公事ヲ檢覈スルヲ吟味ト云、今世吟味ト唱ルハ御目見ヘ以上ノ人ノ云處、糺明ト唱フルハ御目見以^(一三三)下ノ人ノ云處ニ定リテ、オノヅカラ其差別付キタルヲ、譬ヘバ袋杖長柄傘夏足袋ハ以上ニ用ヒテ、以下ニ許サレス、具足櫃ハ一人持ヲ以上トシ、一人持ヲ以下トス、ルガ如シ、然ルニ手代ハ都テ我口ヨリ吟味ト唱ヘテ妨ゲナシ、是ハ御代官ヨリノ書上物ニモ、手代差ツカハシ吟味爲仕ト、シタ、ムルノ定例ニヨリテノコナリ、此事ニテモ御代官ノ手ガハリノ身分ナルコラ可知、就中八州廻り出役サキナドノコニ^(一三四)於ハ、一役一人ノ手代役ニシテ、我ヨリ吟味ト唱ヘ、又其品ニヨリテハ、御勘定奉行ヘ直言上、直書上^(一三五)モ致ス事ナリ、盜賊火付改ノ下司等ハ、頭役ノ手ヲハナレ、他所ニ於テ取調べ物ナド有之節ハ、糺斯下云テ吟味ト云ハズ、是上ミノ意ヲ受テ、取調ヲナスク手續キハ同ジトイヘニ、司役ニ付テ場合ヒチガ

ヒ有ニヘ也、是ラノヲ以手代ノ別境ナルコト知ルベシ、或ル御代官手代何某忘失御勘定所ヘ出役ノ折カラ、御勘定方ヨリノ尋ネニ、手伏ト云モノハ御代官ノ家來カト有ケルニ、何某答ヘテ家來ニハ無之、手代ニテ候ト申ケルユヘ、家來ニ非ズハ下役カトアリケレバ、下役ニモ無之、手代ニテ候ト答ヘケレバ、其手代ハイカル身分ノモノナルゾト云ハレケルニ、^{四才}矢張リ手代ニテ候ト云、幾度尋アリテモ、唯押返シクリ返シ、手代ハ則手代ニテ候ト申答ヘケレバ、御勘定方モ笑テ尋不^レ止ラレタリトゾ、又一人ノ書役始書役ヲ勤メ、夫ヨリ手代ノ本勤ニ至ル、手代勤ノ手續ナリ、御ハ、書役ヲ出サ、御勘定所ニテ、御勘定方ノ談ジ向キニ逆ラヒタルヲ有ケレバ、腹立アリテ、其方ハ何モノゾト間ハレケレバ、書役ニテ候ト答フ、書役ノ若輩モノニテハ談ジ向キ不辨理也、御代官ハ出勤ナキカト尋ラレケレバ、御代官ハ外御用之アリ、出勤無之候ト申ス、左アラバ元^レ出セトアリケレバ、元^レハ病氣ニテ候ト云、左アラバ元^レニ差ツ^マキタルモノヲイダスベシト云ハレケルニ、左候ハ、私ヘ御談ジ下サレカシ、私モ段々段々ニ元^レニ差ツ^マキタル者ニテ候ト申ケルニゾ、一坐頓智ノ答ヘニ感ゼラレテ、再談滯リナク相スミケルト也、是ラノ笑談ニ付テモ、手代ノ手代タル所以ヲシルベキナリ、僕モ不肖ナリトイヘニ、天草陣屋ノ引受ヲ命ゼラレ^{引受ハ、元^レニシテ、一役所一}住勤役スル^カ數年^{天草島ハ征昔一國ノ數ニ入り、五萬石ノ高ナリシガ、後ニ東肥ノ一郡トナリ、}且^{木氏}^{（稱三郎九郎）}支配ノ時^{ユエ有テ高モ半バニ減ゼラレタリ、}其他ノ御代官所モ、御代官定府ノ^{四才}面々ハ、皆重立チタル手代ヲ差ツカハシテ引受サセ、地方ヲ抑按シ、公事ヲ吟味シ、盜賊惡徒ノ取締向ニ至ル迄、武威ヲ減サズ、定法ノ規矩ニ隨ヒ、萬事御代官ニ代リテ、能クコレヲ務ム、寧^ニ鷄口^ニ莫^ニ爲^ニ牛後^ニ廣キ世界ノ内ニハ戸位素餐ノ大身モアリ、酒囊飯袋ノ歴々モアリ、コレラノ者ト引競ペナシニハ、何レヲカ宜トセシヤ、斯テモ御代官ハ在江戸ニテ、手代ヲ差ツカハスユエ、奸曲アリト云ベキカ、裁許モナラスト云ヘキ歟、サレハ手代

ノ身ニアヅカル處ノ務方サヘ斯ノ如シ、シカルヲ云ハンヤ御代官ノ武威職分ニ於ラヤ、譬ヘバ萬石ドリノ大身也トモ、其柄權ヲ削リ去ラレナバ、今日ヨリ武威モ役威モ隨テ共ニ滅ズベシ、百石ドリノ微祿タリトモ、其權ヲ授カリ其職ヲ與ヘラレナバ、即時ニ御威光ヲ輝^{カシ}、ソノ職事ヲ勤メ行ハシ^ト、掌ヲメグラスガ如クナルベシ、漢ノ韓信ハ楚ヲ夜逃ニシタル日陰ノモノナリシカドモ、一トタビ壇ニ升テ、元帥ノ柄權手ニ入レバ、百萬ノ將卒ヲ指揮スル疑^レヲウケ他人ニ大任ヲ取替ラレテ、國ヲ^{五才}出奔シタルアリサマハ、泥ニ尾ヲ曳ク鼠ニ似タリ、翟公^ガ廷尉トナルノ手足ノ如ク、燕ノ樂毅^ハ齊ノ七十餘城ヲ^ミ潰シ、サシモイミジキ大功威勢アリシ身ナリシカドモ、一旦惠王ノ^レ賀客ノ門ニミチシモ、廢ラル、ニ及デハ、門前ニ雀羅ヲ設ケ、後又再任スルニ及デ、來^ハ賀スルモノ、タメニ、^レ一貧一富迺知^ニ交態^ト、門ニ大署シタリシモ、其憤^シ思ヤルベシ、皆是其職權ノアルトナキトノ差別ニシテ、カナラズシモ大身小身ノ差別ニ拘ハラサル^ト著シ、用^レ之則爲^ニ王者師、不用則窮谷一叟耳ト、唐ノ蕭嵩^ガ言、信ナルカナ、^レソノ用ヒカタニヨリテハ、猫モ虎トナリ、虎モ猫トナルベシ、漢ノ梁竦^ガ別縣之職ハ徒ニ勞^人爾ナド云タルハ、畢竟メアザケルノ道理アラン、凡天下國家ヲ治ルノ本立ハ先ツ州縣ノ職ヲ置カズシテ、何ヲ以^テ其治法要領ノ柱礎トセシ、何ゾヤ人ヲ勞スルノ職ト云ンヤ、可^レ笑、且云フ、御代官ニ大身ヲ置テ、刑罰ヲモ、カロギ^トハソノ所ニテ、執^フコナハセタシナド、ハ何ノ云ヒゾ、勿論人命ニ拘ルノ仕置ニ至テハ、國郡ヲ領知セラル、大小名家タリ^ト、其品ニヨリ、^{五才}公邊ヘ内意ヲ伺ヒ、下知ヲ經テ後、之ヲ行フノ例モ不^レ少、況^テソノ地ヲ^レ預^リ知ル奉行御代官ノ職分ハ、領主ノ處置トハ又異也、今日太平ノ御時世ニ於テハ、彼軍中ニ君命ヲ待ズシテ行^フ大ドノ、戰國ノ振合^トハ譯モチガフ「也、サレニ其處ニヨリ、其品ニヨリテハ、カネテ伺濟ミノ手續モアリテ、唯輕キ事ノ刑罰ノミニ非ズ、手限ノ死罪

ヲモ速ニ執行ハレ、置ノ類是ナリ、御代官所ニモ之ニ准ジテ直仕置申シケラル、例モ不珍、是偏ニ人命ヲ重ンズルノ御仁政ヨリ出タル盛事ナリ、中ニモカシカリシハ、民間ノ治ヲ第一トシ、農業ノ筋ヲモ民ノ知ニコトアルヲモ之ヲ教ヘ、川除堤普請ノ類ヲモ申シツケ、盜賊博奕邪宗邪法ノ類ヲモ、之ヲ押ヘサスベシナド、ハ、入ラザル世話ノヤキヤウ也、所謂孔子ニ説經、玉人ニ玉ヲ彫琢スルノ術ヲ教ントスルノタグビ、是ヲハ皆御代官所ヲツムルモノ、常ノ職ナリ、御代官ヲ差ヲカル、ハ何ノ爲ゾ、其田地ノ者ハ門番小使モヨク之ヲ知ル、適ソレラノヲ按シ、アタリ珍シサウニ取並ベタルハイカニゾヤ、譬ヘバ、寛政ノ竹垣君主稱三右衛門ハ上毛二國ノ支配タリシ時、亡村ヲ再復シ、手餘リ荒地ヲ起シ返ヘシ、鳏寡孤獨ヲ哀ミ、逃散ノ民ヲ元ノ地ニ歸ヘシ、他國ノ貧人ヲ招キ住マシメテ戸籍ニ入モノ千八百餘人、又子ヲ間引ノ舊六〇弊惡習ヲ深ク患ヒトセラレ、懇ニ是ヲ教導禁止シ、其資料ヲ施シ與ヘ、小兒ヲ治命養育セシメラル、處ノモノ三千二百餘人ニ及ビ、後ニハ常毛房總ノ四州十萬石餘ノ支配ヲ命ゼラレ、庶民普ク其仁德ニ歸伏セリ、此君ノ功業德政ハ柴野栗山龜田鵬齋二先生ノ傳記碑銘ニ審カニ稱贊セラレテ、人ヨクコレヲ知處ナリ、宋ノ俞仲寬ガ順昌ノ宰タリシ時、子ヲ殺スフライマシメテ、之ヲ助命セシムル「千人ニ過ギ、其子皆俞ノ字ヲ以幼名ニ冠リ、恩ヲ感ゼリトキコエシモ、廣大ノ善行ナリト稱譽シタルニ、猶且ソレニハ三倍ノ大善行、タレカハ是ヲ仰ガザルベキ、サレバ同家ハ積善功德ノ家ガラニシテ、視考ヨリ今ノ竹垣君ニ至迄、襄職御代官ノ家ニ非ズシテ、引ツ、キ五代同職富政ノ竹垣君ハ襄職三代目ノ御代官ナリ稀世ノ規模ト云ヒツベシ、我カ父祖ノ勤メラレタル早川縣令ノ主稱八郎左衛門、勤功勳德モ、大ム木竹垣君ノ政跡ニ類シタレバ略シテ贅セズ、就中碩學ノ聲譽アリ、作州ノ久世ニ典學館、備中ノ笠岡ニ敬業館ヲ創立セラレシハ此君ナリ、太田元貞ガ撰ブ處ノ碑文ヲ見テ、其クハシキヲ知ベシ、又田口君ハ、主稱五郎左衛門、後昇進上州支配ノ時、空野ヲ刈拂テ新邑ヲ取立ラレ、鹽谷君ハ主稱大四郎、後二ノ丸主轉役西國郡代ノ時、筑前ノ海面干潟ヲ開發シテ、千早新

田ノ一村成就セリ、此外ニモ兩君牧民ノ功績ハ云モサラ也、河洲ヲ浚ヘテ貢船ヲ走ラセ、土中ニ樋シテ水道ヲ通シ、或ハ嶮山ヲ穿抜テ坦路ヲ闢クナトノ奇巧妙算、各ソノ宜キヲ得テ公私ノ利益最大ヒナリ、故ニ此人々ハ存世中ヨリ郡民碑ヲ建テ生碑ト號シ、其功ヲ稱ヘ、其徳ヲ慕ヘリ、漢ノ王堂、唐ノ狄仁傑ガ生祠ヲ立テラレシタメシニモヲトラメヤハ、其他諸州ノ御代官山野海岸等ノ新田開發ヲ草創セラレタル廉々、御當代以來、ソコバク萬石ノ御益ト成シナドハ、其功尋常ノ「ドモハ、又天草ニハ、回心踏繪ナド云」モアリ、是ハ先年彼ノ地ノ大江組ト云、組合村々ノ者ドモ、邪宗門ニ紛ラハシキ所行アリシヲ、吟味取鎮メ有テ、夫以來彼村々ニ限リ、年々春冬二度ノ踏繪ヲ改ル、今ニタエズ、コレラノ「ドモハ、右ノ定式普請ヤ、取締物ノ比別主」非レバ、夢ニモシラズ、氣モ付クマジ、其職掌ニ堪タルノ治蹟功勞、隅カラ隅マデ洩ス處ナシ、何ゾ餘所ヨリノ批點ヲ打タル、「ヲゼン、又與力御徒等ノ勤キ業ヲ好マルザル生付ナラバ、御代官ナドニ附ケツカハシ、手代ノ代リニシテ隔チタル國ヲミセ、山川地理ヲシラセ、田舎ヲモ走リ」主歩キタラバ、親ノ懷子ニテ、御城下ニテ育チ、何ノワケヲモ知ラヌアホウニハマサルベシトハ、是何ノ事ゾ、盜人ヲ見カケテ繩ヲヨルヨリモ愚ナル思ヒツキ、左様ノアホウガ手代ノ代リニ用ヒラル、モノト思ヒテノ「ニヤ、是ヲハ目ヲ取テ鼻ニ付ルノ僻論ト云フベシ、乃止手代ガハリニ用ヒラル、マデノ修行稽古ノ出キルモノニモセヨ、用ニ立ベキ手代ヲル、是唯手代ヲ偏執シタルヨリノ思ヒツキナレバ、箇様ノツヂツマ合ヌ「ドモヲ云出シタルモノナルベシ、假令ソレラノ人ヲ手代ニ取立、手代ノ用ヲナシタリトモ、唯人ヲ換ヘタルノミノ事ニシテ、杵取直シタルマテノ仕法、何ノ益カアル、是唯手代ヲ偏執シタルヨリノ思ヒツキナレバ、箇様ノツヂツマ合ヌ「ドモヲ云出シタルモノナルベシ、假令ソレラノ代ノ勤場所ハ、外々ヨリ格別御用ニ立ベキヲ知レバコソ、左迄ニ惡シク云タル手代ノ替リニシテ、修行サセン」ヲ云タルハ、殊更ニラカシ、是ハ御普請役其外ノ子息ヲ、御代官所へ頼入レテ差出シ、手代ノ勤方ヲ見習ハセテ後、御

奉公ノ御用辨ヲ致スモノ往々不少、コレラノ「ヲキ、及テ、カクハ云タルモノナルベシ、彼ラモ砂糖ハ甘ク、鹽ハ辛シト云味ヲバ知テ居ルニコソ、又檢見ニ付テハ、道路館舍ノ掃除、珍膳肩輿人馬送迎等ノ「マデモ、コト」シゲニ取並ベ、剩ヘ賄路ノツカミ取りニテモ、スルヤウニ書ノセタリ、毛見村ニハ定法アリテ、諸事ノ非分ヲ戒ル「第一也、然ド道路ノ露ヲ拂ヒ、橋ナキニ橋ヲワタシ、一汁一菜ノ賄カタ、夫役人馬ノ送迎ノ禮アルヘキハ勿論ノ「ナルヲ、針ヲ棒ニ云ヒナシタルノミナラズ、御代官ヲバ富邦君ニ^等シト云ヒ、手代ヲバ鉢萬ノ金ヲ蓄ヘテ、與力旗本衆ノ家ヲ買取リ、美麗ヲキハム、純親シク見聞シタリナドノ惡言憎ムベシ、但シ純ハ獨リ狐ニデモ誑サレテ、夫ラノ「ヲ親シク見キ、シタリシニヤ、御當代以來、何レノ御代官カ邦君ノ富ヲ致シ、イヅレノ手代カ鉢萬ノ金ヲ賄ヘシゾ、邦君ノ富、鉢萬ノ金トハ何ホドノ分量ト云「ヲ知タルカ、仰山ラシキ申シタテモ事ニ寄ベシ、彼ノ武成ノ血流漂^等杵、孟子ノ周ノ餘^シノ黎民^ヲ遣アル「ナシ、史記之坑四十萬人「ナド、夸大浮套ノ口實似スルヲヨキ「ト、心得タルコソ愚カナレ、誰カハ是ヲ信トシ宜ナハシ、其分ニ非スシテ、其驕ヲキハメシモノハ、却テ町人ニアリ、淀屋辰五郎紀伊國屋手代ヨリ株ヲ求メテ與力ニナリ、御徒御普請役ニ成タルモノハナキニ非ズ、株サヘ求レバ賄賂ノ金ト思フニヤ、手代ノ身ニモ貧富アリ、才不才アリ、僕カ知レルモノニモ、親ノ助力ヲ以求メ、家督地面ヲ沽却シテ求メ、有徳ノ町人ヨリ金ヲ出シテ求メタルモアリ、是ハ手代ニ限リタル「ニモアラズ、唯御旗本ノ家ヲ買取シナド云シハ、全ク虛妄ノ謡言ニテ、古今手代ヨリ御旗本ノ家ヲ買取シモノハ一人モナシ、是ハ手代ニ不限、平人ヨリ御旗本ノ家ヲ買「ハ、天下ノ大禁ナリ、モシコレヲ侵スモノ有トキハ、雙方死刑ヲ免レズ、ソレラノ「ハ他向ニハ有シト聞及タリ、手代ヲモ勤ルホドノ者、其位ノ「ヲ辨ヘザル者ハナシ、御代官ハ小身ナレ^モ、輕カラザル御役ヲ勤ル身分ニヘ、諸事ノ御宛行^モ御

手厚ナレバ、自餘ノ不如意ナル御旗本ノ見クラベトハ異ナリ、内外ノ景様モ見ニ^クカラズ、手代モ亦給料ノ外ニ、御用ニカヽリ、出役ニ向フ品^ミニヨリテ、ソレ^ノアテ行ハル、處ノ扶助アリ、却テ輕キ御家人ノ貧窮ナルニ見競ベテハ、可也ニ取回シヨキモノナキニハ非ズ、サレ^モソレラハ十ガニ^ニテ、内實ハ朝夕ニ苦ミ、内職ヲ營ミ、質店ニ懇意^{一八ウ}ヲ結ブモノモズクナシトセズ、斯イヘバトテ、百千人ニモアマレル手代ノウチナレバ、順良廉直ノモノ斗ニハアルベカラズ、積善ガ云フ處ノ奸詐貪婪^{アハハ}ノモノモナシトスベカラズ、御仕置ニ逢タルモノモ有ケル也、左ハ云ヘ我黨ニハ又我黨ノ法則アリ、不義ノ錢金ヲ食ルヤウナル野卑賤陋ノ事ヲスルモノハ、是眞ノ手代ト云モノニアラズ、左様ノモノモ不^シ苦、天ヨリ與フルモノ有時ハ之ヲ取ルヲ上手ノ手代トス、然レ^モ、夫ラノ取捨掛^カ引、僅ニ一步ヲ誤レハ、差フニ千里ヲ以テ、スペシ、酒入ノ其子ニ酒ノム「ヲ不教、一子相傳ニモ及ガタキハ手代ノ道也、ワヅカ斗ナル給扶持ヲ心欲如^シ無欲^シ是ナリ、若其ワザヲ成サントスベカラズ、彈^{カシ}ヨリ一拳ニ如ズ、薦角小刀細工ニ目ヲカケズ、大名ナドヲ目アテニシテ拔群ノ智術才覺ヲ施シ、百發百中手際ヨキ勵キスルヲ手代ノ名人トハ云ベキ也、因ミニ爰ニ一二話ヲ記シテ、手代仕事ノ内幕ヲミスベシ、我一友人、文政^ノ「末^{九オ}ヘ、或ル諸侯方ノ銀札場ノ潰^シニ及ビシテ、國中ノ通用、領主ノ勝手向モ是ヨリ大ニ立直リケレバ、候ヨリ其歡ヒトシテ、大金ノ報賜アリ、是ラヲ上等ノ手際ト云ベシ、並ベ云フモ鳴呼ガマシケレド、僕天保壬辰ノ夏、羽州酒田湊ヘ御廻米積立トシテ出役ノ折カラ、同所今町辨天祭り、遊女芝居ニ於テ、紀州船乘組ノ者ドモ喧嘩ヲ仕出し、疵ヲ受、其仕返シトシテ類船三艘ノ人數六十余人

一致徒黨シ、今町遊女屋三十軒打殿チノタメニ、竹槍鳶口等ノ得モノヲ携ヘ、船ナアガリシ、領主ヨリ差出ス處ノ取鎮メノ役人トモヲ打散シ、勢ヒニ乘シテ押出シタル途中、秋田町ナル、僕ガ旅宿前ヲ通リカ、リ、無禮狼籍ノ動止アリシニヨリ見遁シガタク、手段ヲ以其者トモヲ捕抑ヘシヨリ、件ノ騒動事穩便ノ取治マリニ相成リ、依レ之時ノ町奉行加藤伊右衛門ヨリ其始末ヲ鶴岡へ執達シ、領主酒井侯ヨリ手厚ノ謝義ヲ贈リ越サレタリ、此一件別記アリ、略レ之、是ラ中等ノ手際トスベシ、又上方筋ナル一大藩ノ領内ニ年々廻米ヲ江戸ヘ運送^{一九四}スル仕來リナリシガ、遠海ノ途中マ、難破船ノ患アリ、且ハ洋中長日數ヲ經ルコナレバ、米穀ノ欠減不少、毎年辨米諸雜費ノ夥キニ困ジ果シヲ、其最寄ノ、御代官手代何某コレヲ聞及ヒ、難澁ヲ察知シテソノ筋ノ役人ヘ理談ヲ遂グ、右ノ廻米ヲ石代金ニ替ヘテ定納トセント計リ、郡中ノ歎願書并ニ掛リ役人中ヨリ申取り書ノ趣意ニ至ル迄、明細ニ下案ヲ取シタ、メテ是ヲ授與シケレバ、教ノマ、ニ取計ラヒテ、則領主ノ聞濟ミヲ受ケ、事成就ニ及ビ、ソレ以來永世石代納トナリ、百姓ノ喜悅大カタナラズ、何ガシヘツコバクノ酬恩ニ及ケルヨシ、是ラハ中等ノ中タル手際ト云ツベシ、右三等ノ品位味ハフテ可知、附テ云フ、先年去ル一儒官、遠國ノ御年貢米ヲ江戸ヘ運送ノコトニ付テハ、公義ヨリ下シ玉ハルトコロノ陸路、川路ノ津出シ、海上運賃金、湊出役、浦役人給扶持等ノ諸入用ヲ先トシテ、郡中ニカヽレル辨米、欠減米、納庄屋出府、湊詰、川通リ駆廻リ、上乗等ノ雜用ニ至ルマデ、公私少ナカラザル失墜ト相ナルコトニ心付キ、就テハ右御廻米ノ分、後來石代金ニ替ヘテ上納スルトキハ、件ノ諸費スベテ相除カリ、上下ノ幸慶ハ云フニ及ズ、御善^{二〇〇}政ノ一美事ナルベシト存ジツキ、右ノ通り御仕方替ヘノ工夫ヲ^{二〇一}懲シテ、其趣ヲ一書ニシタヽメ、時ノ執政家ニ進達シタリケレバ、執政コレヲヨミ玉ヒテ、是ラノコハ記誦ノ儒ナドノ關リ^{二〇二}知ベキ^{二〇三}非ズトテ、即時ニ書面ヲ差返サレケレバ、儒官ハ赤面慚悔シ、折角ノ思ヒタチモ畫餅トナリタルヨシ、左スレバ前段ノ廻米ノ條ト此事ノ一談トハ、頗ル同法

同手段ノ如クニキコユレドモ、其用ト不用ノ入りワケニ至テハ、小同大異、甚夕似テ非ナルモノト云ツベシ、必シモ彼ト是ト混ジテ思ヒ惑フ有ベカラズ、再思セバ解ラ待^{二〇四}スシテ其意味審ナルベキゾ、摠ジテ諸侯ガタノ年々參勤交替ニ大マイノ黄白ヲ費ヤサレ、家國ニ殘シトムルノ蕃ヘナキニ至リ、御廻米ニ多クノ御入用ヲ掛け、東都ヘ差廻サレ、國郡ニ餘計ノ貯ヘナキニ至ラシメ玉ヘルモ、赤石ノ海ノ底深キ御趣意モ有テノフ也トハ承ヌレド、淺瀬ノ浪ノ淺ハカナル、我^ミドモノ智慧ニハ思ヒ辨ヘガタクコソ、

其他大名ガタノ頼ミニヨリテ、經濟向キノ辨利ヲ工夫シ、國ヲ富マン、民ヲ饑ハス等ノ獻策ヲ成就シテ、ソレガタメニ手厚ノ禮物ニニアヅカリシナドノ類モ、往々スクナカラズ、ソレ^{二〇五}ラハ^{二〇六}勤キ次第ノ才覺ナリ、或ハ出役先ニ於テ、諸家ガタヨリ目錄產物等ヲ申シ受ルナドノハマヽアリ、定例ノ外ハ其筋ヘ伺ヒノウヘニテ之ヲ受納セリ、唯ニ手代ノ上ノミナラズ、重キ御役人御代官御勘定方其以下ノ諸役人ニ至迄モ、多ク例有テ耻ル處ナシ、

楊慎^{二〇七}方四知ノ戒メハ最左モ有ベシ、物ト品ニ寄テ、其取捨アラズ^{二〇八}バ、有ベカラズ、昔シ北條ノ青砥左衛門ハ、賄賂ノ錢ヲ贈リタル者ヲ、巧訴不直ノ眼ノ付ケ處トシ、又寛文ノ執政板倉内膳候ハ、諸方ヨリ贈レル音信物ノ品^{二〇九}ヲ^{二一〇}一^{二一}首ノ上ニ棒ゲイタヽキテ、是我^ミガ才德器量ノ働キニヨリテ致ス處ニ非ズ、全ク重職ノ御役義ヲ蒙リシ御蔭相手方ノ者ヨリ浅^{二一〇}爪ヲ贈コシタルヲ賞味セラレナガラ、却テ其者ニ眞罰ヲアテラレタルモ面白シ、シカハ云ヘドモ味噌ラモ屎ヲモ一擱ミニスベカラズ、漢ノ陣平^{二一〇}カ貧乏世帯ノ取直シスルマデ、賄賂ヲトリコミタルノ申シワケ、柳下惠カ途ニ一人ノ婦妻ノ凍ヘタルヲミカケテ、我肌ヲ以アタヽメヤリ、齊ノ管仲^{二一〇}ガ鮑叔ト最合ヒ商ヒノ財利ヲ多ク貪リ取テ、疑ヒヲウケザルナドノ名臣循吏ハ、是億兆ノ人ノ中ノ一兩人ノミ、逆モ凡庸ノモノ、能ク及ブベキニ非レ

バ、隨分トモニ爪田ノ沓李下ノ冠ノ戒メヲ守ルヲ以ヨシトス、カナラズノ人傑タチノ眞似ヲシテ、大キナ目ニ逢フコナカレ、

サレバ上等ノ手代ト云フハ、定例モノ、取アツカヒゴト、公事訴訟等ノコトニヨリテ、禮物ヲ貪リ取ルナドノ類ニアラズ、人ニモ宜シク、我ニモヨロシク、何カタヘモアタリサハリナキ上策ノ仕事ヲ見アテナバ、隨分知恵袋ヲ振ヒ出シテ宜キ種ヲ蔵テヤリ其報酬ヲ受ルヲ以、手代ノ名人トモ達人トモ云ヘキナリ、已レ達セント欲シテ、先ツ人ヲ達セシムトハ、是ラノコトヲ云ナルベシ、コレ皆我黨ノ與秘樂屋探し、所謂以心傳心、世ニ廣クスルノコトニハアラズトイヘドモ、人ノ姓名ヲ問フニハ、先ヅ我名ヲナノルベシ、故ニマヅ、我ガ内幕ヲヒキ明ケテ、馬足ヲ顯ハシ、彼輩方隱藏ニ秘藏トコロノ品玉ノ底ヲハタカセ、灸所ヲ鑿穿テ向後同類ノ見懲シメトス、總ジテ手代トサヘイヘバ、貪官酷吏ヲ以名トシ、賄賂ニ恥リ、國家ノ害ヲナシ、御仕置ノ者タエズナド、目ノ敵ノ如クニ云ヒハヤセリ、イカサマ手代モ數多ノ一^(ニウ)手代ナレバ、ソレラノ者モナキニ非ル^(ヲ)ハ、前條ニ述ルガ如シ、シカハアレ毛手代斗ヲ^(ドヤ)著ニ取テノ云ヒタテ心得ガタシ、知ズヤ、王侯大夫士庶人ノ果ニ至ル迄、熟カ善惡邪正刑罰沙汰ノ非ル^(ヲ)得ン、夫等ノトハ和漢古ニ坐セラレテ、死刑流罪國除滅祿トナリタル大小名百四十餘家^(出國朝舊章錄)其以下ノモノ家ヲ亡シ身ヲ害セシ類推テ可知、何ゾヤ手代バカリニ限レリトセン、刀瘡易^(カ)没惡語難^(カ)消古言ニモ君子ハ人ノ美ヲナストコソアレ、儒者ノ儒者タル心ガケアランモノハ、ソレラノ言ニモ恥ラベキハヅナルニ、却テ新疊ノ塵埃ヲモタ、キタテ、人ノ醜名ヲ嗅出サントスルハイカニゾヤ、是ニツケテモ穿鑿ダテスル儒者ト云モノニモ、豈篤實謹行ノモノ斗ナランヤ、況^(イ)テ彼ノ三子ノ徒ナドノ罪狀ヲ逆カ穿鑿シナバ、却テ奸詐貪婪國家ノ害ヲナスノ族モナカルベキカハ、サラバ是ヨリ其黨類ノ惡臭

風ノ棚ヲロシスルヲ聞ケ、ツラ／＼彼徒カ平常ノ行事ヲ惟ルニ、中臣ノ祓詞ナラネドモ、口ニハモロ／＼ノ不淨ヲ云コラ厭ヒテ、讀書講談論說ヲ勤メトシ、著作ヲ繕ヒ、詩ヲ賣リ、文ヲ衒ヒ、唯東修儀物ノ多カランコトヲ欲シ、心ニハモロ／＼ノ不淨ヲ釀シテ、父子相争ヒ、兄弟相鬭キ、放蕩惰弱、人ニ奢ルヲ高致トシ、人ヲ見ルコト芥ノ如ク、淫行嗜欲ノ念々無^(レ)所^(レ)不^(レ)至、サレバ朝夕ニハ孝弟忠信ノ道ヲ^(建)説テ賢人ブリ、タベニハ市井無賴ノ奴トナリテ、恥ル^(ヲ)ナシ、コレヲ是偽學詭諑ノ徒、邪誕妖妄ノ族ト云ベキノミ、斯言タル斗ニテハ、手代ノ境界ヲサミセラレタル腹イセニ、云ハレザル惡名ノ云立テスルナド、嘲ラン輩モ有ベキナレド、左ニ非ズ、然バ我方角ニ拘ハラザルニニ事ヲ擧テ、其偽學邪誕ノ本體ヲアラハスヲ聽ケ、先ツ徂徠ガ、使番ト云役無用ノ役也、摠ジテ今ノ世ハ諸役共ニ器量ノ人ナシナド書シ、純ガ、天子ノ外ニ日本ニテ御ノ字ヲ用ル^(ヲ)甚妄也ト書シ、自己ノ了簡ヲ以、都テ御ノ字ヲ除キ去リ、是上ヲ直參旗本ナド、恣ニ書チラシタリ、是等ハイカナルミダリゴトゾ、本性沙汰トハ思ハレズ、天下ノ政令國家ノ制度ヲモ、平日ノ口癖ニ門弟子ニ教戒スルハ何ノ爲ゾヤ、國ニ國法アリ、家ニ家法アリ、鄉ニ入テサヘ郷ニシタガヘトノ教ニ非ズヤ、況ヤ堂々タル天下ノ御法ニ於^(ヲ)ヤ、其國ニ生レ其土地ニ住シナガラ、イカニ漢流が好物也トテ、云ヘバ」^(ニラ)イハル、囁言カナ、使番ハ無用ノ役、諸役ニ器量ノ人ナシナドハ、何レヘ對シテノ言ニヤ、又御ノ字ノコニ付テモ、僭妄ヲ改メ愚昧ヲ去シ爲ナドハ、誰ヲ目アテノ云ヒ分ントカスル、斯ハ政道ヲサミシ、法令ヲ亂リナガラ、是ヲシモ純ラガ罪ニ非ズトセンカ、畢竟我ハ我法ヲ用フナドノ戲文ヲヨミテ、ヨキフト思コミタル逆升人ノ申シ分^(イ)、所謂人參烟ケノ狼ト、同類ヲ遁ルベカラズ、夫レ禮者朝廷ヨリ定出サレテ、天下萬民貴賤上下ノ品ヲ亂ラシメンカ爲ノ法也、ワケテ我國ニハ、御ノ字ノ有ルト無キトヲ以、尊卑品ヲワカツグ禮制トス、然ルニ天子ノ外ニ御ノ字ヲ用ヒザル

ハ漢法也トテ、今公儀ノ通法ト成キタル御用ヲ用ト書シ、御所ヲ所ト書シ、出御還御ノ類ヲモ、出ト書シ、還ト斗書スベキカ、又御臺所ノ御ヲハヅシナハ、庖厨ノ名目ニモ紛ラハシカルベク、御新造ノ御ヲ除キナバ、花街ノ小妓ニモ混ズベク、新宅新船ノ名ニモ差合ナルベク、御袋ノ御ヲ去ラバ、人ノ事トハ聞エガタカルベシ、其他城代奏者用人留守居中間臺所人ナト、云ハゞ、公私ノ役名イヅレカ差別アリトゼン、差アタリ唐人流ニハ宜ク共、自國ノ通用ニ大差支ヘノコ有ベシ、又今日ノ言葉ノ上ハ更ナリ、文通往答ノ書面ナトニ至迄、御ノ字ヲ省キ去リナハ、是又自他ノ差別ヲウシナヒ、^{ニミオ}盲目突合ヒ同前、凡日本ノウチニ居住ノモノハ、^{（舊）}反的難澁至極ナルベシ、或ル人純ガ自筆ノ書翰ヲ所藏シタルアリ、是ヲ見ルニ彌御靜安被成御座等ノ文句アリテ、尋常ノ俗通ニカハリナシ、又彼ガ何ガシヘ呈進シタル書記ヲ、辨道書ト名ツケテ上木セリ、其書ヲ見ルニ、常ノ俗用ノ御ノ字文談ニテ、御領解御記憶御工夫御疑惑御難儀等ノ御ノ字ヲ始トシテ、書中追々御ノ字有コト八百バカリ、先キノ宛所ハノゼアルユエ其名ヲシラズトイベドモ、ヨモヤ 天子ヘ向ケ奉リテノ文通ニモアルマジ、左アランニハ、經濟錄ニハ御ノ字ヲアザケリサミシテ除キ去リ、辨道書ニハオビタマシキ御ノ字ヲ書入タルコト、是何ノ意ゾ、寔ニ尻ト口トニテモノ言フトハ此事成ベシ、コレニ付テ一話アリ、近キ頃一諸侯大津ヲ通行セラレシニ、土地ノ御代官石原君^{（稱清左衛門）}コレニ出迎ハル、ノ事有テ、御役名ヲ記シタル名札ヲ差イダサレケルニ、先走リノ取締役人、コレヲ主侯ニ執達スルトテ、大津代官石原某トヨミ上ゲケルニ、石原君コレヲキカレテ、大聲ヲ發シ、代官ニハアラズ、御代官ナリトヨバ、ラレケレバ、取次役人ハ、公儀ヘ對シ奉リ、不敬ノ罪遁レガタク、其場ヨリ主侯ノ暇ヲタマハリ、^{（三ラ）}追放サレントゾ、是ハ私領所ノ代官ハ御ノ字ヲ付ケズ、唯代官ト唱フル處モアリケルユエ、口癖ニ成リ、ウカト御ノ字ヲ除キテヨミ上ケ、カヽル越度ヲバ引イタシタルナリ、是我國ニハ御ノ字一字ノ有無ニヨリテ、輕重尊卑ヲ分ツノ禮法ト成リ來ルヲ知ベシ、其ウヘニ猶モカシカリ

シハ、和名ノ御目付御使番ヲ、唐ノ例ナリトテ御ノ字ヲハヅシ、目付使番トバカリ書タレドモ、其目付使番ハ唐ノ例カ、唐名カ、御ノ字ハ唐風ニ除キ去リ、役名ハ和風ノマ、ニテ用ヒタルモイカゞ、トテモノ事ニ丸マ、ニ唐名ニシテ、使番ヲ介入トモ書キ、老中ヲバ執政、目付ヲバ簡較ナド、モカ、バ書ベキニ、ドチラ付カスノ其書キブリハ、師匠徂徠ガ南留別志ニ云タル如ク、唐ニモ着カズ、日本ニモツカズ、チクラガ沖ニ漂ヒタル書ザマト云ベシ^{（其又徂徠モ是チクラが沖ノ漂流仲間ナルベシ、同ク）}シカノミナラズ、御ノ字ノセンサクダテノミニシテ、其他ノ事ニハ猶不都合ノ事アリ、自分ノ名ノ彌右衛門ハ、漢風ニテハヨモアルマジ、假令ツノ名ハ日本ニ隨ガフトモ、御ノ字ノ謂レヲ述テ、僧妄愚昧ナド、戒シメ改正スルホドノ存ジ付ナラバ、何トテ庶人ノ浮浪人トシテ、右衛門ノ官名ヲ私ニハ侵セシソヤ、徂徠ガ莊右衛門モ、^{（同シク之ニ類ス）}官名モ亦天子ヨリ任ゼラレタルモノニシテ、ワガ私ニ名ノル^{（二日才）}ベキコトナラネド、足利季世ノ亂逆ヨリ此カタ、天子將軍ノ武威モ行ハレズ、諸侯各割居シテ玉法ヲ猥リ、公儀ヲ蔑ニシ、位官階級法律モ廢頽シ、四方ノ武人、君トナク臣トナク、自分免許ニ受領シテ、國名ヲヨビ、官名ヲ名ノリシヨリ、無法不當ノ俗習ト成來レル由且件シノ漢風流ノ意味ヲ以、コレヲ他事他物ニモ推及ボシナバ、只ニ御ノ字斗ノコニ限ルベカラズ、朱明ヨリ前ノ制ハ、知ザルヲハ有マジキニ、甘ンジテ時俗ノ流弊ニ落入ナガラ、シカツベラシク御ノ字穿鑿モ、事ヲカシカラズヤ、尙ニ隨ント思ハゞ、ヤロウアタマヲ撫髮ニセヨ、韓清以後ノ制ニシタガハント思ハゞ、芥子坊主アタマガ相應ナルベシ、笠ハ帽子ニ替ヘ、草履ハ革沓ニ改メ、衣食住言辭應接トモニ、一切ブチマダラニ成ザルヤウ仕直シテ、唐人ノ人別帳ニ入ルコソヨガレ、左ナキニ於テハ、彼源三位入道ニ射取ラレタリシ鶴ト云化物ニモ似テ、紛ラハシカルベシ、是ラノ「ニツキテ又一笑談アリ、或ル儒士ニ佐竹文介ト云モノ、其隣人ト談話ノ折カラ、云々ノコニヨリテ出役スルノ由ヲ云ケルヲ、文介キ、咎メテ、俗談平語ノ國風トハ云ナガラ、シユツヤクト云ハゞ言ベシ、デヤクト音訓ニ取交ヘ

「タルハ」^(二四)アマリナル俗習、キニクシト云ケルニ、隣人コレニ對ヘテ、イカニモ國俗音訓ノ取マゼヨミヲ、重箱ヨミ湯桶ヨミナド、モ云ヘバ、漢風ヨミトハ相違モ有ベシ、去ナガラ夫ニ付テノ不審アリ、先生ハ何トテ苗字モ名モ彼ノ取交ゼヨミニハ付ラレシゾ、是モ俗習ナラメヨミカタニヨマバ、サチクブンカイト歟、スケダケフミスケトカ有タキモノニ非ズヤト、詰リ問ケレバ、先生ハ一句ノ返答モデキス、閉口シタリシトゾ、議他人非、不如正自己之非トハ此事也、又彼ラガ存生ノ前後ナルベシ、其頃時ヲ得テ、將軍家ノ盛寵ヲ蒙リシ儒官ノ人々ノ勸メ奉リ、禁中ナラデハ經營セラレザル御門ヲ新タニ取建ラレ、殿中モ大方漢風造リノ御住居向成カハリシヲ、御代替リノ明君御移徒早々、他事ハ閣カセラレ、先ツコノ門ヲ破却スベキ旨ノ台命下リシヲ、時ノ執政家諫メ奉テ、御引移三日ヲモ經ザルニ、先君ノ位置カセラレシ御門ヲ改革有シコト、イカゞ成ベキ由ヲ申上ラレシニ、件ノ門ハ唯禁内ニ限レルモノナルヲ、經營アリシハ先代ノ過失也、其過失ヲ知ナガラ、一日オクハ一日ノ非ヲカサヌルノ理ナレバ、片時モ早ク是ヲ取り除クベシトテ、即時ニ取拂ハセラレ、尋テ殿中漢風^(二五)ノ結構ノ分ハ、悉ク復古改正セサセ玉ヒシトゾ^{享保明君錄}是ラノ光景ヲ思ヒ合スルニ付テモ、昔ヨリ儒生學徒ノ新法ヲ計較テ、仁義ヲ充塞シ、朝野ヲ亂リ、民心ヲ荼毒スルコト少カラズ、漢文ノ張湯桑弘羊、神宋^(三)ノ王安石昌惠卿ラガ徒是也、利口ノ邦家ヲ覆シ、佞辨ノ社稷ニ禍スルノ根本、可憚、實ニ是王者ノ放徒、大僻不赦ノ罪人、彼輩モ長生シテ此世ニ在ラバ、其自然ヲ得ザルノ黨類ナルベシ、見ヨ、商鞅李斯方苛酷ノ新政モ、一旦ハ用ヒラレタリトイヘニ、未遂ニ何ノ奇特カアル、一人ハ車裂ニセラレ、一人ハ三族ヲ刑セラル、蘇晉^(四)張儀ガ合從連衡ノ遊說モ、果シテ後ニ何ノ功業ヲカナセシ、大骨折テ鷹ノ餌ト成リ、ツイニ天下ヲ他人ノ有トス、約ル處、君ニ禍ヲ釀シ、民ニ艱苦ヲ與ヘ、己カ身ヲ害スルノ外ニ出ズ、或ヒハ四方藩邸ノ儒臣、志ヲ得テ一時登庸セラレシモ、多クハ禁錮幽閉放逐ニ、其終ソラ能セザルノ徒モ亦イクバクゾ、此頃一書ヲ閱セシニ、近世ノ學者ノ

舉動ヲ批評シタルモノアレハ、事ノ因ニ依テ其一二事ヲ抄出シテ以、後來ノ警戒トス、其文ニ曰、曩歲、一友人設酒席、糾^(五)宣^(五)廟政、約各言所畏、無理者罰、有^ト云^レ畏權貴者、有^ト云^レ畏富人者、最後一人云、天下之可畏者極夥矣、而其中尤可畏者、儒之狡黠奸惡者也、余就詰其故、曰、戰國之間、秦儀范蔡李斯之徒、流毒天下者、孰非讀書之子、且就趙宋一代而論之、丁謂王欽若王荊公章惇之徒、往々禍^(六)社稷人民者、孰非讀書之子、云々、天地之間、可畏者極夥矣、蜂蠻之毒可畏也、虎狼之搏噬可畏也、鉤吻野葛之毒可畏也、魑魅魍魎之祟可畏也、而四者之中、尤可畏者、魑魅魍魎爲甚、以^レ善變^レ其嘴臉之故也、雖然魑魅魍魎之技止此耳、若當今姦黠之儒、其變幻更甚^レ於魑魅、而其技又極夥矣、所謂技者何、非文章經學之謂也、種々之惡業、似光棍趕蛋之爲^(所說)者也、世間喧傳、點儒撰^レ角力帖子之日、以上^ニ下其名、扶制愚人、而讒奪星金、其不出^ニ星金者、置^ニ其字號於下等之最下焉、其毒熬之慘也、比^ニ蜂蠻更甚、嗚呼可畏哉、是非者天下之公也、是曰^レ是、非曰^レ非、謂之直、斯民也、三代之所以直道而行也、點儒輩以^ニ二人之愛憎、顛倒天下之是非、謂之鉛刀爲銛、鎧錚爲鍔、謂之碱杖^(七)爲玉、真玉爲石、點儒之生、何不直耶、既已謂之點、何以責其不直耶、既已知^レ之、彼力帖子者、出^ニ於此輩之手、自有天下之公儀在焉、因^ニ是一責之、則黨中彼此互相嫁禍、云々、魑魅魍魎亦固善變幻矣、吾所以變幻者、以^レ欲^ニ崇^レ人也、點儒輩亦復善變幻矣、其所以變幻者、以^レ欲^ニ免^ニ天下之謗也、然則善變之名、未易遽爲之、及^ニ其負^ニ天下之謗、甲云乙所^ニ爲也、乙云甲所^ニ爲也、彼此相嫁禍、豈丈夫之所^ニ爲哉、云々、魑魅魍魎非不善變幻也、然特變^ニ其其嘴臉耳、若點儒之輩、則善變^ニ其心與^ニ言、莫有所^ニ恥愧也、比^ニ之於魑魅魍魎、豈不更可畏哉、吾儒之教、主忠信者也、未有^ニ詐偽反覆、誇張爲^ニ幻、若是之術也、抑紅教喇嘛之法乎、將亦光棍趕蛋之^(八)乎、儒而若是、甚可怪也、云々、其友ヲミテ其人ヲ知ルトカ、此文ヲ見^(九)テ其輩ノ行狀ヲ知ニ堪タリ、據シテ是ラノ儒生ノ活業ヲミル

ニ寄合坊主ノ宗論スルゴトク、朱子學ヲ貴ミ、古義ヲ言立テ復古ヲ唱ヘ、彼ヲ誹リ、是ヲ嘲リ、各其道ヲ道トシ、其學ヲ學トシ、治亂興廢令典得失ハ定例ノ論義、高慢道具ニハ素人威シノ雅樂ヲ談シ、周易ヲ説キ、經濟錄ニ述タル處ノ禮樂易道ノ無益ノ長文ヲ見テモ可知、空論ヲ尙ビ、文史ヲ玩ヒテ、唯舌ヲ振り、唇ヲ鼓スルノミ、或ハ文事尺牘ノ答酬ニ理屈ヲネヂ合ヒ、穴ホヂリヲ競フノ筆戰ヲ事トシ、果ハマケズ魂ヲ主張シテ、確執絶交ニ至ルヲ見識名聞トスルノ屬ニテ、何一つ仕出シタリト云所作モナク、徒ラニ白駒ノ隙ヲ費スノミ、簡様ノ「ドモニテ治國平天下ノ心術ハ拔ラキ、修身齊家ノ眞似方モ覺東ナシ、只是名教ヲタカシム援ノ徒ト云ベキノミ、サレバ彼ラガ本店トスル漢土ニモ、儒者ノ天下ヲ治メタルタメシヲ不レ聞、却テ世ヲ亂シ、民ヲ誣タルモノ、多キトハ、前條ノ手續ヲミテモ可知、マシテ日本神武ノ國風ニ於ルヤ、雅樂ニテ世ヲ治メタル國主モナク、周易ニテ亂ヲ平ダタル大將モナク、學者ノ力ヲカリテ天下ヲ取リタル君ハ猶以ナシ、其ナキ子細ヲイカニト云ニ、孔子モ時ニ遇ズトハ、是取締ヒノ言葉」二七〇、孔子孟子ノ識量タリ也、君ニ臣トシ事ルヨリ上ノ望ミニ出ズ、治世經濟ノ料理献立ハ利口ニヨクト、ノビタレ也、之ヲホトコシ用フルニ期ナクシテ、流浪遍歷ノ一生涯ナリ高祖ハ馬上天下ヲ得、安ゾ詩書ヲ用ヒント云ヒ、宣帝ハ漢家自制度アリ、何ゾ必シモ、唐虞ニ效ント云ヘリシモ、是同意ナリ、僕崎陽ノ御代官ニ勤務セルコト十餘年、彼ノ地ノ寺社聖堂ハ悉支配下ニテ、是ラノ輩ノ進退差引ヲ司リシヲ其數ヲ知サリシガ、寺社長袖ノ向キノ世事ニ不案内ナルハ、制外ノ身ナレバ左モ有ベシ、學者ノ徒モ亦同ク公私ノ掛リニ疎ク、萬事ニ付テ不馴ナルコト、俗人ニハ劣リタリ、サレドモ農商ノ上ニモ立ツ身ナレバ、其心情ハ高上ニテ、ヤ、モスレバ利害ニ戾リ、強情ヲ慕ルナドノフマ、有ケレバ、餘計ノロフキ、テ、教諭納得サセシコモ不レ珍、菟ニ角學者ニハ一ト拍子抜ケタルモノ多シ、天保申年西國郡代鹽谷君御役替ノ跡ノ支配所、長崎御代官ヘ預ケラレ、鄉

村受取ノ節、僕ラモ豊後ノ日田ニ在陣シタリシカ、同所ノ儒者」廣瀬求馬ハ、攝西ノ一人トモ云ハレシ博學名譽ノモノ也ケレバ、先支配ヨリ苗字帶刀ヲ差許オカレタルニヨリ、跡支配ニ於テモ、右ニ準ズルノ取扱ヒニ預リタキノ旨、申シ繼キニ相ナリ、然ルニ御代官ノ下向モ無ニ、其手數ニモ至ラザリシ先ニ、求馬ハ苗字付ノ名札ヲ棒ヶ、大小ヲ帶シテ、陣ノ玄關先キニ來リ、案内ヲ申シ入ケルニヨリ、其時ノ元ベ手代中田海藏ヨリ、入來ノ趣意ヲ問ハセケルニ、支配替リノ歎トシテ參向ノ旨ヲ答ケルニヨリ、先ツ海藏ヨリ玄關ノ應對ヲ差トメ、小使部屋ヘ通シオキテ申談ジケルハ、其方身分取扱ヒノコニ付テハ、先支配ヨリノ申送リモ有レ之、御代官ノ下向ヲ待テ、其事ヲ計ラハント思フ處ニ、今日推參ノ結構、苗字ヲ名ノリ、帶刀シテ、支配ノ玄關ニ案内スルヲ、不禮不敬ノ致方ト云ベシ、早々立カヘリ、御代官ヨリ身分格合ノ免許ヲ蒙リテ後、カサネテ入來可致ノ旨申シ達シケルニ、求馬ハ蒐角不得心ノ有リサマニテ、格合ハ先支配ヨリノ仕來リナド、何カト愚意ヲ申張、利害ノ旨ヲ承引セザリケレバ、海藏モ不得止聲ヲアラ、ゲテ、數百人ノ門弟子ヲ教授スル儒者ノ身分ニモ不似合、是式ノコラモ辨ヘ知ザルハ愚痴蒙昧ノ「申シ條トヤ云ベキ、古ヘノ道ヲ學シヨリハ、先ツ今日人間有用ノ道ヲ修行シナバ、斯斗ノ道理ハ分明ナルベキ也、斯テモ猶強情ヲ張シトナラバ、定法ヲ以、刀ヲ取上ケ、不敬ノ罪ヲ糾スベキカト有ナルニ、始テコレニ驚伏シテ、誤入タルノミナラズ、村役人ヲ賴ミテワビ入レ、漸クニキ、濟ミヲ受タル後、數十日ニシテ格合免許ヲ賜ルヲエタリ、又近頃或大諸侯東都ニテ、不器用ニシテ應對ノ度ゴトニ、ハナハグ不都合ノコトノミ有テ、役分ノ勤マルベクモアラザレバ、外役人ニ引カエラレテ、不首尾グラバノコト共ナリシトゾ、是ラノ事ハ眼前ニ見聞ヌルトコロノ學者ノ風ナリ、甚當世ニウトキヲ知

ベシ、僕アル時一儒生ニ、鎌倉時代ノ將卒ノ成敗得失ヲ談ゼシニ、一事モ知ラズ、試ミニソレヨリ以前ノコトヲ談ジケルニ、猶シラザレバ、國史ヲバ見ザルカト尋ネケルニ、彼ノ邦ノ歴史類ニ於テハ、恐ラク見ザルトコロナシトイヘドモ、日本ノ書ハイマグ見ザレバ、不案内ニテ候ト、公然トシテ答ヘシニ、興」モサメハテ、口ヲツグミタルコトモアリキ、斯レバ世ニハ日本紀一冊見ザル日本ノ學者モ有ル事ゾカシ、伊勢ノ貞丈ガ著セル四季艸ト云書ニ、徂徠ガ源平盛衰記ニ女房男房トタハフレカキシタル根ナシコトヲ見アタリテ、古ヘハ女房ト云ノミニアラズ、男房ト云「モ有リト、云ヘリシラ笑ヒテ、歎生ハ隣國ノ「ヲハ委ク知タレビ、我居住スル日本ノ「ニハ甚ウトキ人ニテアリシユエ、タマノ男房ト云「ヲ見ツケテ驚キタル也トアリシモ氣ノ毒千萬也、傍又近世儒者ト稱スルモノ、詐術驕僭、カゾヘアグルニイトマナシトイヘドモ、思ヒイヅルマ、ニ、チドハカトリ摘ミテ、コレヲ譴責シ、コレヲ裁判ゼン、蓋シ三子ノ外ノ人ニ對シテハ、強チ其罪ヲ尤ルノ本意ニハアラギリシカドモ、元來同境內ヨリ發リシ出火ナレバ、終ニハ一廓中ノ類焼、其非火_{非國}ヲ顯ハサマル「ヲ得ズ、コレ又時運ノ然ラシムル、勢止事ヲエズ、氣ノ毒ナガラ共ニ連坐_{アキテ}ノ難ノ免レガタキヲ如何セん、伊藤仁齋ハ都下ノ花街ヲ過ルトキ、娼家ノ婢女ニ引込マレ、鑿應ニアヅカリテ、其花街娼家ナルコトヲ知ラズ、數人ノ妓女ヲミテ妓女ナルコトヲシラズ、庖厨ヲ調_{二九九}通ヒテ美酒佳肴ノ多ク供ヘアルニ驚キ、是財ヲ輕ンジ、德ヲ敷キ施テ路人ニ及ヘル也ナド歡テ、後ニ門弟ニ語タルヨシ、一山伯養ハ篤學慎行、當世人夫ニ打交リ立勵キタリトゾ、三宅尙齋ハ破屋ニ住居シテ、雨天ゴトニ雨漏ケレバ、ミツカラ屋上ニ升リテ修覆ナシケルニ、其身大兵ノ肥満人也ケレバ、踏回ル處ノ屋根却テ多ク破壊セシトゾ、肥後ノ鍛茂八郎大坂ニ出テ積善ヲ訪タルトキ、冬也シガ薄羽織ヲ着シケレバ、怪ミテ其子細ヲ尋ケルニ、國元ヲ立出ルトキ、此羽織ニテ出シト答ヘケル

由、取ワケ仁齋ナドハ德行ノキコエモアリ、路ニ追剝ニアフテコレヲ教諭シ、或ハ縉紳家ノ珍襲サレシ五色ノ「石ニ、龍ヲ生ズルノ前見アリテ、之ヲ原野ニ捨サセ、又ハ爲狐所魅_{アキテ}ヲ退治セシメシナト、世ニモキコヘタル大儒ニ在ガラ、現在其身ノ居住セル土地ノ花街青樓ヲモ辨ヘシラザル不案内ハ、盲人ニモ劣レリト云ヘシ、其他上下ノ禮服ナル「ヲ知テ、儒業ノタメニ着用スルハ左モ有ベシ、井戸替ヘニモコレヲ用ヒテ、不相應ナル「ハ不及論、破レ屋上ニ升テ大兵人ノ踏タテナバ、イヨノ屋根ハ破壊ニ及ブベク、夏ハ夏ノ服ヲ用ヒ、冬ハ冬ノ服ヲ用フル「ナドノ」「ハ、三歳ノ小兒モヨク之ヲ辨知ス、イカナレバ斯迄ニ愚痴暗_{一字既力}ノ甚シキ、菽麥ヲモ辨ゼズトヤ云ン、去ル戰國ノ一諸侯軍學師ヲ召抱ントテ、休息所ニ食膳ヲ賜ハリシガ、其モノ汁掛ケ飯ニシテ一口味ハヒ、再ヒ飯ニ汁ヲ掛ケ直シタリシヲ、候透見セラレテ帷幕ノ内ニ計ヲグラシ、天下ノ治亂勝配ヲモ瞭察スベキ軍師ノ、些細ナル一椀ノ内ヲダニ計リ得ザル者ガ、何ノ役ニカ立ベキトテ、早ニ追出サレシトナリ、儒者モ治世安民ノ經術ヲ旨トスル身ニアリナガラ、右ノ如キ鼻ノ先ノ「ヲモ不知ナドノウツケモノガ、何事ノ用ヲカナシ得ン、猶是ラノ外ニモ、三宅希賢ガ三十餘年過タル親ノ喪ヲツトメテ、名聞ヲ釣ントシタル造リ賢人、中根東里ガ路傍ノ樹下ニ醉倒レタル父ニ、持出シノ蚊帳ヲツリト云ヒタテ、觀雷亭ノ記ヲ作リテ、世間ヘ吹聾シタルコケ威シ、那波魯堂ガ放蕩無賴、益田鶴樓ガ「生涯ノ呑倒_{ホウドウ}」ノ字、高野蘭亭ガ、觸體盃ノ惡物數奇、山崎闇齋ガ算用知ラズ、會津侯ノ葬禮ニ棺廓ヲ巨大ニ積リ損ネタルヲ後悔モセト心得、聞書シタル晦盲闇愚、井上金峨ガ人寄セ講釋ニ木戸錢ヲ貪リ溜メテ、鬻講ノ汚名ヲ創タル恥シラズ、藤井懶

齋ガ苗字ノ井ヲ省キテ藤ノ草冠ヲ除テ、勝瀬齋ト名ノリシヨリ、漢風病々逆上仲間ニ傳染シテヨギトシ、夫ヨリ苗字ノ本躰ヲ失ハセタル無分別モノ、是等ノ輩迄一々批判ヲ加ヘンモ、紙筆ノ費ナレハ略レ之、「書ニ、或人蒲生何ガシニ太田錦城ガ學文ヲ問シニ、彼レハ書林ナリト答フ、是ハ程子ガ所謂書不必多看、要知甚約、多看而不知其約、書肆耳、トイヘルト同日ノ談也、ト云フ意味ヲ書載シタルモノナリト見エ、又晩年少女ヲ畜ヘ、陰虛火動ノ症トナリテ、天壽ヲ縮メタルコトナドモ世ニ聞エタリ、經學自慢ノ大先生ニハ、甚夕淺智無分別ノ身ノ成リユキナラズヤ、又近ク文化年間ニ、東武高名歴^{ミロウ}ノ儒林仲間、料理店ニ集會ノ折カラ、亂醉狂言ノアマリ、陰襄競ベシテ興ヲ催シ、其ヨロノ大評判ニ成タル「モ有リキ、サレバ道德仁義ヲ以己ガ任トシ、世教ヲ維持スルヲ以身ノ職トストコソキハタルニ、今ヤ冠履處ヲ異ニシ、頭足相換リ、イヅレ劣ラタ藝苑ノ奴隸、雅筵ノ牽頭^{タケモチ}、寔ヤ古ヘ蒼頽文字ヲ造リテ鬼夜哭ストアリシモ、定メテ是ラノ輩ノ爲ニ哭シタルモノナルベシ、共ニコレ一蓮託生ノ相住居、正路ヲ取失ヒ、邪道ニ迷ヒ入り、異行異躰ノ坐臥行事ヲ以テ、四夫匹婦ノ耳目ヲ新タニスルヨキコト、コロエタル、天地間ノ不用人、賣名射利ノ曲學者流コソハ歎カハシケレ、コレヲシモ聖賢ノ道ヲ修行スルノ徒トイフベキ歟、皆是追放以上ノ罪人タルベシ、近松門左衛門^{カ院本}ニ云ヘル、風雅デモナク、軀落^{スヤレ}デモナシトハ、是之ヲ云ベシ、彼三子者モコレラノ因襲中ニアリナガラ、掛ヶ構ヒモナキ手代ノ田地ニ、左斗ノ毒ヲ書流シタル「返ス」モ奇怪也、顧フニ此輩^ヲ求馬ガ如ク手代ニイヂメラレ遺恨ヲサンハサミ、犬糞ニテ仇ヲ取ントスルノ族ナルベシ、理リナル哉、徂徠^ガ死期ヲ見ヨ、平生ノ賢人ブリモ屁一ツノ正躰ヲ顯ヘシ、熱狂亂心、水火ヲ避ケズ、妄罵諧語ノモガキ死ヲナシ^{ミオ}、弟子ドモコレヲ恥テ、外人ヲ通ゼズ、或ハ良死ニ非ルノ惡評モアリシゾ^ノ又純ガ身分ノ業曝シヲ見ヨ、彼ガ死後ニ經濟錄ノ著述世上ニ流布シタリシガ、品ム公道ヲ乖亂セル箇條少ナカラズ、容易ナラザル大不敬ノ罪科キハマリ、彼ガ埋リタル處ノ墓所ヲ

ホリ崩シ、死骸ヲ引出シ、重キ刑罰ニ行ハレタルヨシ、世ノ人之ヲ墓覆シノ御仕置トハ申シツタヘケル也、誠ヤ下流ニ居テ上ヲ詛ル者ヲ惡ムト云ハ是也、一人之ヲ唱ヘ、萬人之ヲ和スルトキハ、亂ノ本也、是猥リニ時務ヲ誹謗シ、我才幹ヲ人ニ衒ハントシタル驕慢心ヨリ、却テ死ニ恥ヲ後世ニ殘シ傳ヘタル大罪人、天罰思ヒ知ズンバ有ベカラズ、又只此事ノミナラズ、存生中ノ行跡ヲモ見ヨ、其生質ノ野卑食戻、嗜食ノコニ至ルマテモ、意智ノ汚ラ思ヒヤルベシ、草保ノ執政本多侯^{中務}_{大輔}ヨリ賜リタル乾海參ヲ喰足ズ、腐物ト名ヲツケテ、餽ルニ腐物ヲ以ス、是禮ノ廢也ナド、コトドシゲニ云贈リ、再び之ヲ食リ取テヨキ「トス、諸侯ヨリ賜モノト云ヒ、干物ト云ヒ、何ゾヤ腐物ノ贈モノ有ベキ、孟子ニ所謂飲食之人、則人賤之トアルノ類、巧僥無慙ノシレモノ、一事」ヲ以萬事ヲ可察、箇様ノ鄙劣心ヨリ、己カヒガミ根性ニ思ヒクラベ、毛見先ニ珍膳佳肴ノモテナシ有リナド、人ノ嘶ヲ聞カデリテ口ニ涎ヲ流シ、ヨキ加減ナルヲシ付推量ヲ書ナラベ、鑿^{ツクフ}鑿^{ツクフ}ノ本躰ヲアラハシタルモアサマシキ^{鑿養韻會曰、食嗜飲食曰、左傳文(公)十八年續雲氏有不才子、食於飲食貪於貨財天下謂之口}斯ハ非政ノ政事ヲ談シ、不經濟ノ經濟ヲ錄シナガラ、何ヲ以テカ政談ヲ名トシ、經濟ヲ名トスキ、不當僭上、二書トモニ表題ヲ削去テ、永ク世ニ公ニスルコラ禁ズルコソヨケレ、同ク儒者ノ名ニヨベトモ、川谷貞六ナトハ我國ノ眞儒トモ賞スペシ、室鳩巢カ駿臺雜話ヲ難ジテ、「生レヨシ甲斐アル國トシラネバヤ、異浦ニノミヒラフアマ人」、コト浦ニヒラス徒多キ申ニモ、徂徠ガ自身ヲ東夷物茂卿ト書シ、或ハ平維章ガ東海談ト云筆記ニ、徂徠が書ケル孔子畫像ノ贊ニ、癸卯之夏日本夷人物茂卿稽首拜手謹題ト記セシヲ、嘲ケリ驚カシタルヨシナドモ、石原正明ガ年々隨筆ニ見エ、又純方辨道書ニモ、品ム我國ヲ賤シメ輕ンジタル、不埒至極ノ書ザマナドモ見ウゲタリ、寔ニ是師弟同群、カクアリガタキ御國ニ生レナガラ、好ンデ異域ノ狄人戎奴トナル、人面^{ミコト}獸心^{ミコト}齒牙ニ掛グルモ忌ハシカリ、僕平常日本人ノ大明大清又ハ中夏中國ナド書キタル冊子ヲ見レバ、忽チ嘔吐ヲ催サントス、況テ是ノ東夷夷人ニ於テハ沙汰ノ限

リ、愛想モ好想モ盡ハテタリ、彼ノ孔子ヲ以大將トシ、孟子ヲ以副將トシテ、我國ヲ攻キタリナバ、彼ラニ左袒シテ、日本ニ弓ヲ引クノ凶黨ナルベシ、但シ三子ノウチニテハ積善ガ罪ヲ輕シトスベシ、服部南郭モ但徳ガ門ヨリ出タレドモ、唐土ヲ稱スルニ海外彼邦等ヲ以テシ、嘗テ中華中國ヲ稱セズトカ、東夷夷人ノ顛狂モノトハウラ腹ノ心得カ、左モアリタシ、宜ナリ此南郭ハ老子ニ所謂知者不言トノ言ヲ諒也トシテ、經濟ヲ談ゼズ、其故ハ世儒ノ經術ヲ以強ヒテ世ニ施ス時ハ、果シテ國ヲ誤ル類ノ多キ「ヲ恐ル、方ニエ也トゾ、又三浦竹溪ガ吉田侯ニ仕ヘシ時、途ニ純ニ逢ケルニ、純出身ヲ賀シテ、近頃聞ク足下言聽レ道行ハレ、恭祝ニ堪ザルノ旨ヲ申シ述ケルニ、竹溪ガ答ヘニ、豈道ノ爲ニ仕ヘンヤ、唯食ヲ求メンガ爲ノミ也ト云ハレタルニヨリ、純ハ其挨拶ニ偶ノ晉モ出デズ、鼻アカセラレタルマ、ニ立別レ」シトゾ、山本申齋ガ言ニモ、離讐ノ小儒、雕蟲ノ詩人、世道ニ害アル勝テ言フベカラズト云シモ尤也、是等ノ人々ハ能ク物ヲ辨ヘ、掛ケ飾リナク世儒ノ骨銅ヲ打出シタル儒中ノ正道モノト云ベキ也、古之學者爲己、今之學者爲人トカ、俗諺ニ所謂鎗持館ヲツカハズ、辨當モチ辨當食ハズト云モ此道理成ベシ、猶彼ノ三書ノ事ニ付テハ記シ置タキ言ノ數々、濱ノ真砂ノ限りアラネド、ツクノホウシ盡ル期ナク、蘆ワケ小舟ノサハリアルコトモ有レバ、唯我カ地面ニ拘ハレルコトノミヲ論ヒテ、禿筆ヲトム、コノ書ヲ覽ルノ君子コレヲ察セヨ、

イカヅカハ餘所ノ時雨ト見テヤマン、

後序

大凡御代官五十家に、出勤手代千人、不勤手代千人、但徳が黨の醜口の發端より、百七十年の今に至まで、手代の摠數幾千萬人なるべきに、誰一人彼等が誣言邪猜を說破たる手代のあらざるは、忍びてこれを云出ざる歟、忍びざれど

も懸止せしか、今や我僚友内藤光備君、一朝此事を憤激せしより、依不留非の一舉事就て、魚目的玉に混ぜしを看顯はし、蘿丈の蘭を葬りしを摧折しは、實に百七十年の一人、幾千萬人の傑出、未發の確言、金玉の公論、嗚呼痛快なる哉、我も亦一河の同じ流域を汲て、頗る空谷蛩音の思に堪す、呦々の鹿の友によりて美草を味はへるの甘心、何事かこれにしくべき、併是麒麟尾に跨て千里の盛觀を共にするの幸慶なる哉、

干時安政丙辰新涼

崎陽縣吏 金井紀俊 謹識

跋言

與狂人走者、狂名欲免得乎、雖然狂也、有笑者、有哭者、有怒者、有躍者、拔劍者、揮棒者、裸者、呼者、一々不可盡也、有攫櫛狂者、干此、奮然將擊我、我曰、彼狂也、不足角也、然察視其勢、必也害我焉、豈有坐見流血淋漓者哉、是余所以不愁狂名之不免而抗上也、丙辰五月辛未、内藤光備書而記其後、

于時安政五年歲次戊午仲秋、鶴府城南麓松月亭南窓下、揮禿筆摸寫、

涼竹陣人圓圓

依ふるひ

五九（五九）